

# 『埼玉県営業便覧』の資料的特性と 明治期の埼玉県における中心地の機能と分布

谷 謙二（埼玉大学）・飯田貴美子（北本市立東小学校）

## I はじめに

### 1. 埼玉県営業便覧とは

本研究では、明治期の埼玉県の町並を知る貴重な資料である『埼玉県営業便覧』の特徴を検査し、さらに明治期の埼玉県における中心地とその機能・分布を明らかにする。

『埼玉県営業便覧』は、1902年（明治35年）に全国営業便覧発行所から発行された。その内容は、①名所・店舗等の写真、②広告、③町ごとの地誌、④町ごとの道路に沿った店舗業種と商店主名の町並図からなっており、冊子の大部分は42町1村分の④からなっている。

「序言」によれば、「埼玉懸下、商工業の取引、交通の案内に便し、以て懸内生業の発達進歩に貢献せんとする」ことを目的に、明治33年に出版に着手した。その間「廣き懸下の事として、資料の蒐集に、頗る困難」だったものの、編者自身が県内を回り、また協力者に調査を依頼し、予約募集を行って明治35年10月に発行された。また「更に進んで、他府懸に及ぼし、着々出版せんとす」と書かれており、元来は埼玉県だけでなく、全国各地の営業便覧の発行を企図していたようである。

管見する限り、実際に発行された営業便覧は、埼玉県、群馬県、栃木県の三県であり（表1）、それぞれの体裁はほぼ同一である。1976～78年にかけてそれぞれの復刻版が異なる出版社から出されているが、復刻に際して相互の関係は特に記述されていない。

### 2. 営業便覧を利用した従来の研究

これら営業便覧は、明治期の町並みを知る貴重な資料であることから、様々な分野で活用されている。川崎(1996)は、明治期から昭和初期の秩父

大宮の商家構成の変化を明らかにする資料の一部として『埼玉県営業便覧』を使用している。このように、営業便覧の一部を資料として用いた研究は、浦和市史等の各地の市町村史をはじめとして他にも多数存在すると推測される。

営業便覧全体を使用した研究としては、『栃木県営業便覧』を使用して文明開化期に発生・発達した理髪店、写真館等の「文明開化業種」の立地を検査した井上(1983)がある。『埼玉県営業便覧』を使用した研究としては田村(1980)がある。田村(1980)では、坂戸市、越生町それぞれの商業地域の形成過程の研究で『埼玉県営業便覧』が使用されているほか、43町村の店舗を日用・食料品商、衣料品商、身辺細貨品商、家具類商、文化品商、農業用品商、サービス業の7つの業種に分類して集計し、町村ごとの特徴を明らかにしている。この研究では、町並図の記載店舗の文字の大きさをデータに入れるなど、かなり詳細な分析が行われているが、資料的特性に関しては次のような検討が必要だろう。まず、資料を元にして町村間で比較をするためには、当時の地図と比較した網羅性を検討する必要がある。次に、記載されている店舗などの情報を細かく分類して分析する必要がある。

### 3. 中心地研究と営業便覧

『埼玉県営業便覧』を含むこれら営業便覧は、その詳細さから明治期における中心地研究のデータと成り得る。富田(1991:163)は、比較的均質な地域条件を持つ人口密度の低い農業地域では、かなりクリスタラーの理論図式にのっとった中心地分布の規則性があるが、工業化や都市化が進展した地域では規則性は認められないと指摘している。こうした条件を考えると、明治期の関東平野は中心地の規則性の認められやすい地域に該当す

表 1 発行された営業便覧と収録範囲

	埼玉県営業便覧		群馬県営業便覧		栃木県営業便覧	
発行年	1902年(明治35年)		1904年(明治37年)		1907年(明治40年)	
編集者	田口浪三・高柳鶴太郎		田口浪三		城北逸史・田口浪三	
復刻版	1977年・埼玉新聞社出版局		1976年・みやま文庫		1978年・吉本書店	
収録範囲	浦和町 蕨町 川口町 草加町 鳩ヶ谷町 与野町 大宮町 上尾町 桶川町 鴻巣町 原市町 志木町 大和田町 川越町 所沢町 豊岡町 入間川町 坂戸町 越生町 飯能町 松山町 小川町	秩父大宮町 小鹿野町 本庄町 児玉町 熊谷町 妻沼村 深谷町 寄居町 忍町 加須町 羽生町 騎西町 岩槻町 粕壁町 菖蒲町 久喜町 越ヶ谷町 大澤町 栗橋町 幸手町 杉戸町	前橋市 高崎市 大胡町 倉賀野町 渋川町 伊香保町 金古町 総社町 藤岡町 新町 鬼石町 吉井町 富岡町 一之宮町 妙義町 福島町 下仁田町 安中町 松井田町 原市町 白井町	坂本町 板鼻町 中之条町 長野原町 原町 草津町 沼田町 伊勢崎町 境町 玉村町 太田町 尾島町 木崎町 薮塚本町 桐生町 大間々町 館林町 小泉町	宇都宮市 栃木町 小山町 石橋町 壬生町 藤岡町 足利町 佐野町 犬伏町 堀米町 田沼町 葛生町 鹿沼町 今市町 日光町 足尾町 矢板町 氏家町 喜連川町 塩原温泉 大田原町	佐久山町 芦野町 黒羽町 川西町 黒磯町 那須温泉 西那須野駅 真岡町 久下田町 益子町 茂木町 鳥山町 馬頭町

るだろう。森川(1987)は1980年代半ばまでの中心地関係論文を整理し、中世・江戸時代～明治期以降の歴史地理的な中心地研究として34本の研究をあげている。そうした中で、吉津(1978)は、『埼玉県営業便覧』の発行時期と近い、1906-7年(明治39-40年)の「日本全国商工人名録」を資料として用い、関東地方の270の中心地を商人数をもとに7階層に区分し、銀行の立地過程を検討している。「日本全国商工人名録」では、営業税を10円以上納入した商工業者の氏名・業種等が市町村ごとに記載されており、営業便覧の内容に近い資料と言える。ただし、営業税を10円以上納入しているという点から、小規模な中心地では商人数・業種がかなり限定されると予想される。杉浦(1992: 138-156)は、同資料を用いて埼玉県北東部の熊谷、羽生、三田ヶ谷の3町村の中心機能構成を示している。これによると、羽生には13の業種が立地しているが、金物商や材木商などは見られない。しかし『埼玉県営業便覧』の羽生町の町並図においては、こうした業種の記載も見られるので、営業

便覧を使用することでより小規模の中心地の業種構成を知ることができる。また町村別の記載といえども、町並図として記載されているので、中心市街地のみ業種構成が把握できるのという点は中心地をとらえる上で大きな利点であろう。

Sugiura(1991)は、19世紀末の浦和町～川越町～熊谷町を含む領域における179の中心地を階層区分し、分析を行っている。区分の方法は、第一段階として1897年に裁判所や郵便局等の公共施設あるいは銀行が立地しているか、『埼玉県営業便覧』に掲載されているかのいずれかを満たす場合を上位階層とし、それ以外を下位階層とする。次に上位階層の31の中心地を、町か村か、『埼玉県営業便覧』での掲載の有無、1897年の人口、公共施設の数、銀行の数、の5つの指標をもとにクラスター分析によって分類している。このように『埼玉県営業便覧』は中心地研究の資料の一部として用いられているが、その利用はまた部分的であると言える。

# 浦和町略圖



図1 町並図の冒頭に掲げられている略図（浦和町）

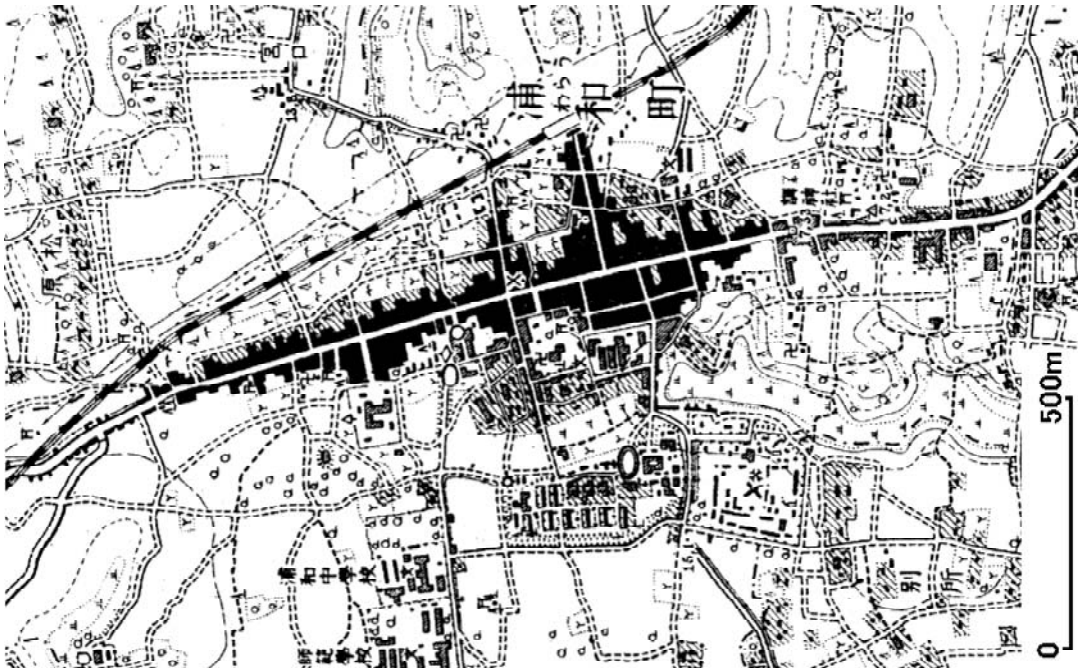


図2 1906年測図 1/2万地形図「浦和」

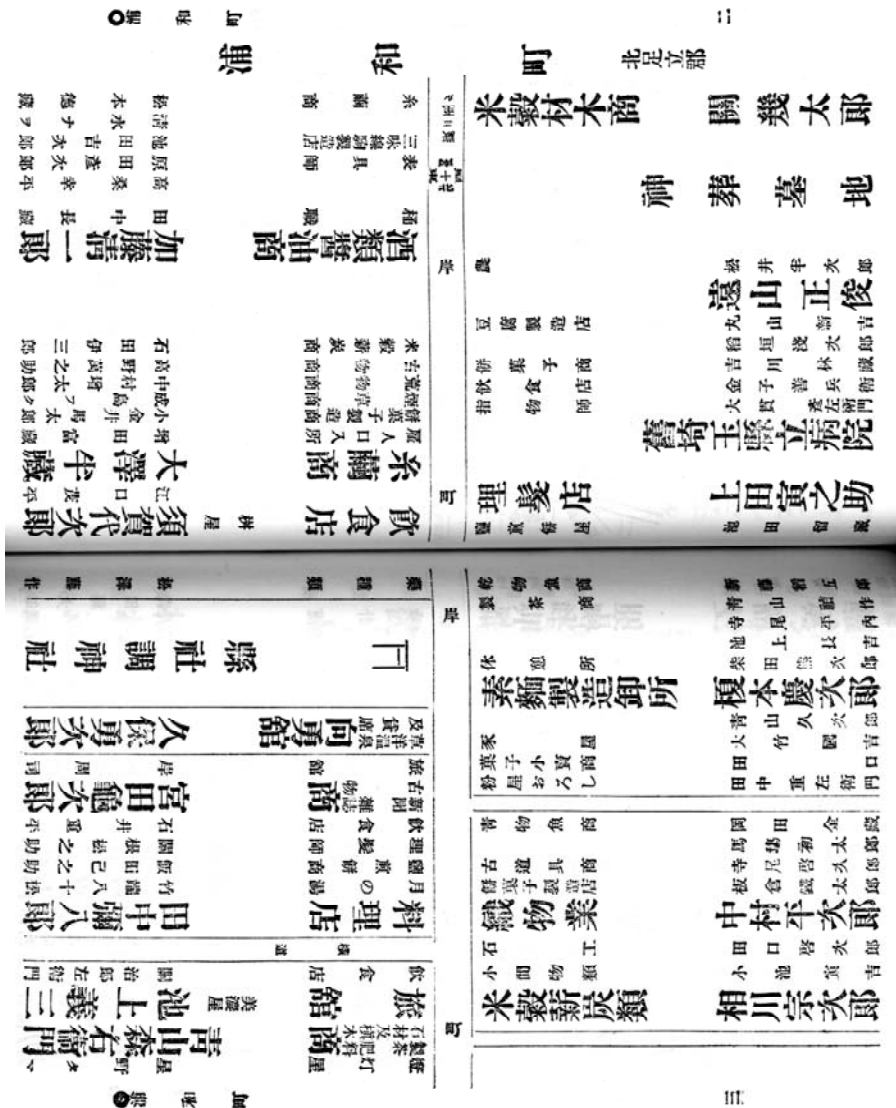


図3 浦和町の町並図の一部

## II 町並図の内容と業種分類

### 1. 記載町村について

『埼玉県営業便覧』では43町村が記載されていると述べたが、実際には複数の町村が含まれているケースも見られる。たとえば加須町の町並図においては、不動岡村が同時に記載されているが、加須市と不動岡村とは近接しているものの市街地

は連続していない。越ヶ谷町と大澤町では、町並が連続しているにもかかわらず別個に記載されていることを考えると、加須町と不動岡村も別個に扱われるべきだと思われる。したがって、本稿では加須町と不動岡村を分けて44町村を分析単位とする。

この44町村には当時の埼玉県内の42町はすべて含まれている。しかし、それが当時の埼玉県のすべての中心地とは必ずしも言えない。営業便覧に

表2 町村ごとの網羅性の検討

郡	町村名	検討の際 使用した地形図	測図 年次	記載 状況	備考
北足立郡	1 浦和町	正式1/2万地形図	1906	△	横道等で未記載の可能性あり 町並から外れた農村集落の織物工場が記載 市街地西側の記載がない  原谷町へ続く町並の記載がない  1924年の状況と比べると収録範囲が狭い
	2 蕨町	正式1/2万地形図	1906	◎	
	3 川口町	正式1/2万地形図	1909	△	
	4 草加町	正式1/2万地形図	1906	◎	
	5 鳩ヶ谷町	正式1/2万地形図	1906	△	
	6 与野町	1/2.5万地形図	1924	◎	
	7 大宮町	1/2.5万地形図	1924	△	
	8 上尾町	1/2万迅速図	1881	◎	
	9 桶川町	1/2万迅速図	1884	◎	
	10 鴻巣町	1/2万迅速図	1884	◎	
	11 原市町	1/2万迅速図	1881	◎	
	12 志木町	正式1/2万地形図	1906	◎	
	13 大和田町	正式1/2万地形図	1906	◎	
入間郡	14 川越町	1/2.5万地形図	1923	△	1924年の状況と比べると記載範囲が狭い 主要街路の外側の記載がない  1923年の状況と比べると記載範囲が狭い
	15 所澤町	1/2.5万地形図	1921	△	
	16 豊岡町	1/2.5万地形図	1921	◎	
	17 入間川町	1/2.5万地形図	1923	◎	
	18 坂戸町	1/2万迅速図	1881	◎	
	19 越生町	—			
20 飯能町	1/2.5万地形図	1923	△		
比企郡	21 松山町	1/2万迅速図	1884	◎	
	22 小川町	—			
秩父郡	23 秩父大宮町	—			
	24 小鹿野町	—			
児玉郡	25 本庄町	1/2万迅速図	1885	◎	
	26 児玉町	—			
大里郡	27 熊谷町	1/2万迅速図	1884	◎	
	28 妻沼村	1/2万迅速図	1884	◎	
	29 深谷町	1/2万迅速図	1885	◎	
	30 寄居町	1/2万迅速図	1885	◎	
北埼玉郡	31 忍町	1/2万迅速図	1884	△	八幡神社前の町並の記載がない
	32 加須町	1/2万迅速図	1884	◎	
	33 不動岡村	1/2万迅速図	1884	◎	
	34 羽生町	1/2万迅速図	1884	◎	
	35 騎西町	1/2万迅速図	1884	◎	
南埼玉郡	36 岩槻町	1/2万迅速図	1881	◎	氏名だけの記載が多い
	37 粕壁町	1/2万迅速図	1881	◎	
	38 菖蒲町	1/2万迅速図	1884	◎	
	39 久喜町	1/2万迅速図	1883	◎	
	40 越ヶ谷町	1/2.5万地形図	1928	◎	
	41 大澤町	1/2.5万地形図	1928	◎	
北葛飾郡	42 栗橋町	1/2万迅速図	1883	△	堤防沿いの記載が少ない 連続する上高野村・権現堂川村の町並も含む
	43 幸手町	1/2万迅速図	1883	◎	
	44 杉戸町	1/2万迅速図	1883	◎	

は「埼玉県下市日一覧表」が掲げられているが、それは36町村分で、44町村すべてで定期市が開催されていたわけではないことがわかる。また秩父郡皆野村は定期市が開かれていたが、営業便覧には掲載されていない。『新編埼玉県史通史編4』に記載されている、近世後期の定期市の分布と比

較してみると、秩父郡の村や北葛飾郡平沼村（吉川村）など、掲載されていない場所も少なくない。しかしながら、明治40年前後の1/5万地形図で見ると、少なくとも営業便覧に掲載されている町村よりも規模の大きな市街地を持つ「村」は見られ

ない<sup>1)</sup>。したがって、営業便覧に掲載されていない中心地は、より規模の小さいものと言うことができる。

## 2. 地形図と町並図との比較

『埼玉県営業便覧』の中の町並図について、浦和町を事例として検討する。図1は町村ごとの町並図の冒頭に掲げられている略図である。町並図は略図に記されている通りに沿って描かれており、浦和町では中央の中山道、「停車場通り」、「表門通り」、「裏門通り」、「清水屋横町」が記載されている。図2は、1906年測図の1/2万地形図「浦和」で浦和町を示したものである。図1と図2を比較すると、少なくとも浦和町の主要街路沿いは網羅されており、町全体の家並を知る貴重な資料と言える。ただし主要街路以外の、「表門通」と「裏門通」をつなぐ路地などの記載は見られない。

図3は浦和町の町並図の一部を示したものであり、通りに沿って業種名と氏名、さらに屋号が記載されている。記載されている内容は小売業に限定されず、卸売業、製造業、職人、神社、病院なども網羅されており、また一つの店舗でも複数の財を取り扱っている場合は「米穀材木商」のように並列して表記されている。店舗の中には、大型の活字で表記されているものもある。これは間口の広さを表しているとも考えられるが、田村(1980:195)は掲載料をより多く支出した営業規模の大きい店舗だと推測している。

次に掲載されている44町村の町並図の記載範囲の網羅性を当時の地形図をもとに検討する。1900年代には、正式2万分の1地形図が作成され、検討に好都合だが、埼玉県については浦和以南しか作成されていない。それ以外の範囲について、まず大宮以南の地域では大正～昭和初期に発行された2万5千分の1地形図を使用し、大宮よりも北側では明治10年代に作成された2万分の1迅速測図を使用した。これらの地形図でカバーされない範囲については検討から除外した。論文末の資料1は、それぞれの地形図上に記載されている町並の範囲を示したものであり、表2はこれらをまとめたものである。

正式2万分の1地形図と『埼玉県営業便覧』の発行時期はほぼ同じだが、2万5千分の1地形図や迅速測図は発行時期から20年ほども前後している。そのため、迅速図の町並と比較した場合、鉄道の駅が設置された町では従来の町並から駅に向かう道（浦和の場合は「停車場道」）が新たに建設され、その両側に町並みが形成されている。特に熊谷町・本庄町では駅に向かって面的に市街地が拡大している。しかしこのような駅周辺の市街化を除けば、明治10年代の町並と『埼玉県営業便覧』の記載範囲はおおむね等しい。

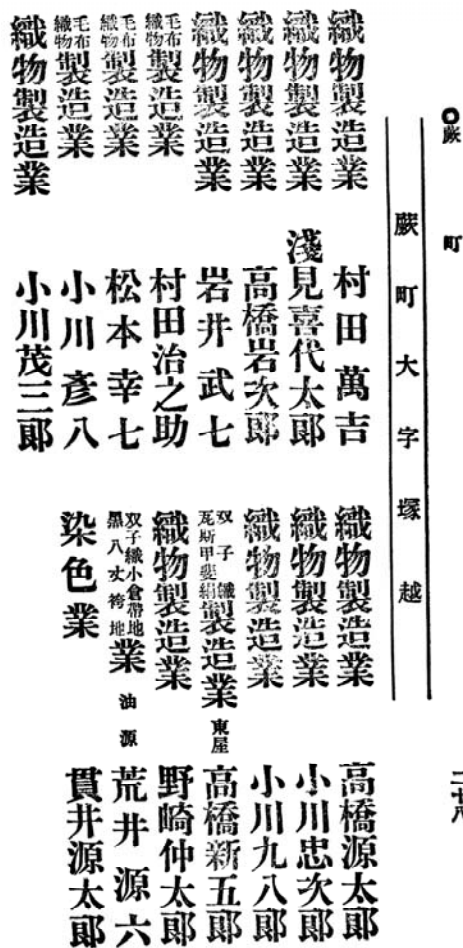


図4 蕨町での町並図でない箇所（大字塚越）の記載

1)ただし北足立郡大和田町に関しては、地形図上では市街地は形成されておらず、かなり小規模な町と言える。

記載方法に関して、町並図であると述べたが、必ずしも町並図ではない部分もあり、町並から離れた店舗や工場などを記載する場合には、住所での記載が見られる。そうした中には蕨町のように町並から離れた地区（塚越）にある織物工場の一覧が記載されていたり（図4）、場合によっては別の町村のものも記載されていることがある。

また、街路に沿った町並図という表現方法上の特徴から、町全体が一本の街路に沿って形成されている場合は網羅性が高いと考えられ、町並が連続する場合には隣村にまで記載が伸びることもある。たとえば幸手町では、町並が連続している南側の上高野村と北側の権現堂村も含んでおり、記載範囲が南北に長くなっている。

しかし、面的に市街地が拡大している町の場合、横道や路地は記載から漏れやすいと考えられる。特に川越町は、1923年の地形図と比較してみるとカバーされていない範囲が少なくないことがわかる。また川口町も市街地西側の記載が欠けている。大宮町についても、1924年の地図と比較すると記載範囲が狭い。ただし、1881年の迅速図と比べると広がっている。飯能町も1924年の地図と比較すると記載範囲が狭く、迅速図に記される町並のほぼ同範囲である。

このように、『埼玉県営業便覧』は掲載した町村の町並をおおむね網羅しているものの、一部網羅性の低い町もあると言える。

### 3. 記載内容の分類

次に、『埼玉県営業便覧』に記載されている町並図の内容を業種ごとに分類して集計する。集計の際に、神社・寺院・墓地等の宗教施設、学校・町村役場・裁判所等の公共施設は対象から除外した。

業種の分類方法としては、まず大きく小売業、サービス業、職人・土木建築業、卸売・買継・仲買業、製造業に大きく分類し、さらに詳細に分類していった。しかし明治期の業種は現在とかなり異なっており、また製造と職人・小売業者が明確に分離していない。そこで、分類の際にはそうした業種を小売業に一括した。具体的には、以下の業種である。まず食品関係では、菓子商と菓子製造業、豆腐商と豆腐製造業、茶商と製茶商、牛乳

商と牛乳搾取所はそれぞれまとめて小売業に入れた。日用品関係では小売と職人との違いが明確でないため、桶商と桶職、籠商と籠職、篩（ふるい）商と篩職、玩具商と玩具製造、人形商と人形製造などを小売業にまとめた。同様に家具関係でも、指物商と指物師、箱商と箱職、建具商と建具職、畳商と畳職などをまとめた。農具では、鋤や鍬の柄を交換する棒屋、棒職などを小売業にまとめた。一方鍋・釜などを修理する鋳掛師や鍛冶屋、車一般に関わる車屋・車職などは小売業ではなく職人に分類した。

職人が記載されていることにより、記載内容が当該場所で営業しているのか、それとも単に居住者の職業が記載されているのか分類が難しいケースがある。「職工」や「会社員」と記載されている場合は、職業と考えて集計していない。しかし「鳶職」や「人力車業」の場合は自宅で営業活動も行われているとも考えられるので、集計の対象とした。

こうした検討の結果、小分類において小売業を87区分、サービス業を28区分、職人・土木建築業を15区分、卸売・買継・仲買業を27区分、製造業を17区分の合計174に区分した。区分の内訳については資料2に記載した。

### 4. 複数の財を扱うケース

図3の「米穀材木商」という記載に見られるように、一つの店舗で複数の財を扱う商店が少なからず見られる。こうした場合、一つの商店で複数の機能を有するものとして、それぞれの分類ごとに分けてカウントした。この「米穀材木商」の場合は小分類「1米穀」と「78材木」に分類される。しかし「荒物紙商」や「荒物桶商」のように、荒物商が一般的に扱っていると考えられる財を並列している場合は「30荒物」に分類した。「39紙」に分類されている商店は、「紙商」または「紙楮（こうぞ）商」のように専門的に紙を扱っている商店である。同様に、「小間物袋物」といった場合は「27小間物」に分類し、「28袋物」に分類される商店は袋物を専門的に扱う商店となる。

燃料では、「50油」「51薪炭」「52石油・石炭」に分類したが、複数の燃料を扱う商店の場合は次のように操作した。まず石油・石炭を扱う場合は

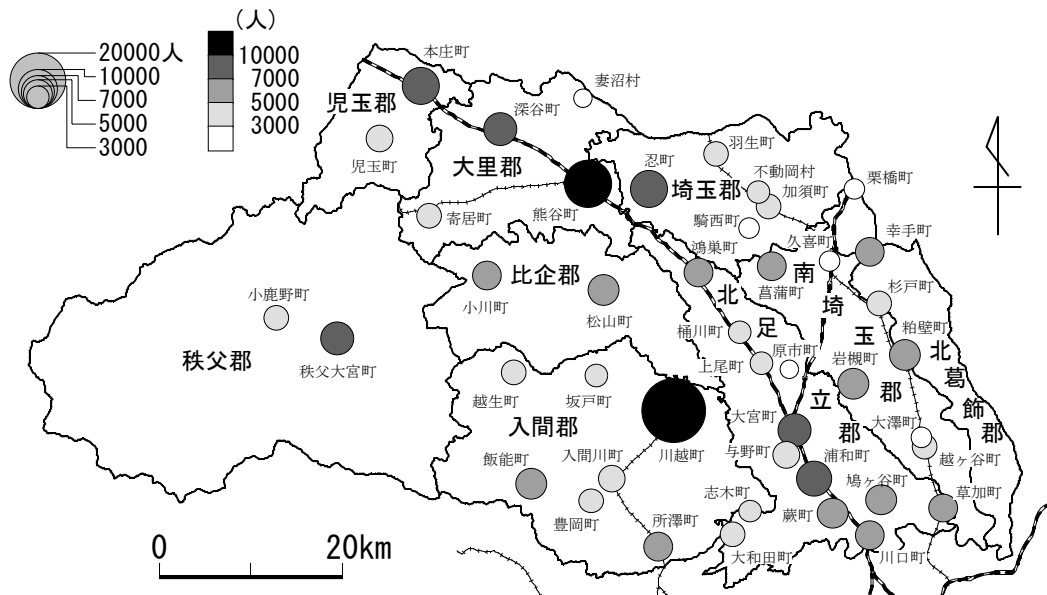


図5 1901年（明治34年）末の町村別人口

注：鉄道網は当時のもの

資料：埼玉県統計書

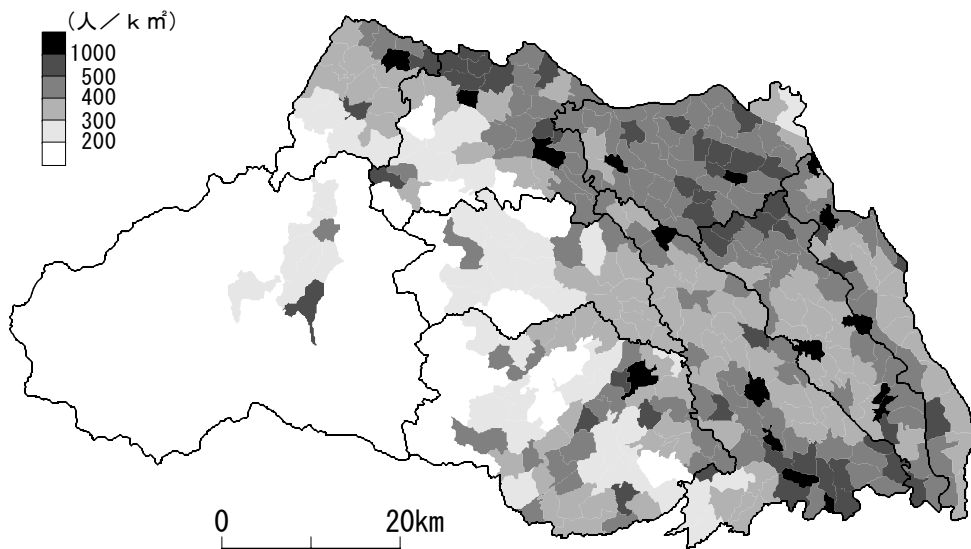


図6 1901年（明治34年）末の人口密度

資料：埼玉県統計書



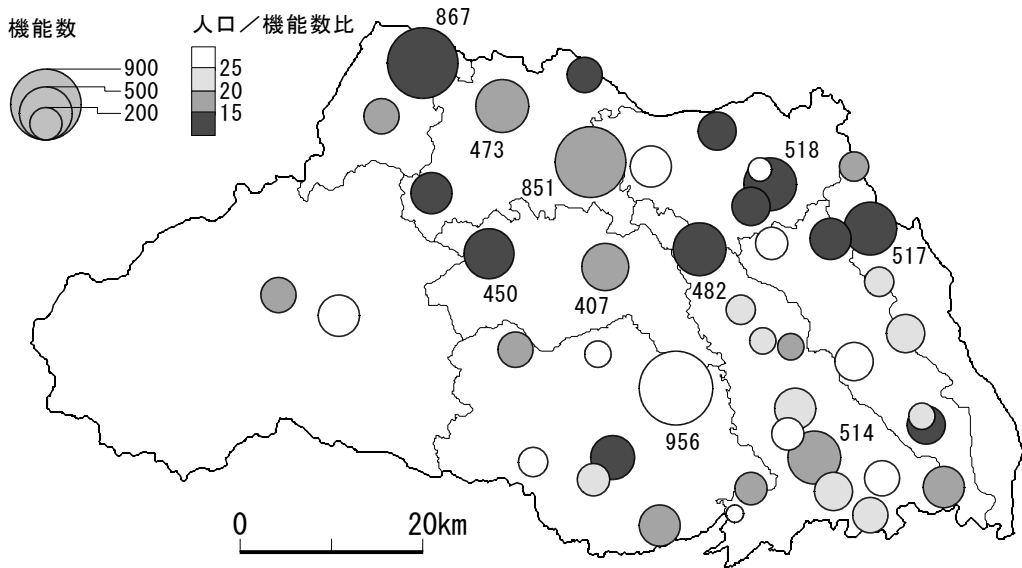


図7 機能数と人口／機能数比

注：数字は機能数

資料：埼玉県営業便覧，埼玉県統計書

優先的に「52石油・石炭」とし、ついで「水油」「煉油」などを扱っている場合は「50油」に、それ以外の「炭」「薪炭」「木炭」のみを扱っている場合を「51薪炭」とした。したがって、燃料の3種の中には重複してカウントした商店は存在しない。

このように複数の財を扱う商店を別々の機能に分類して集計したため、得られた数値は商店数ではなく機能数となる。町村ごとの集計結果は資料3・4に記載した。なお図4のように町並からはずれた地区の記載がある場合で、それが当該町村内の場合は合わせて集計し、別町村の場合は集計対象からはずした。

### Ⅲ 町村ごとの機能の特徴と階層区分

#### 1. 人口数と機能数

図5は、44町村の1901年（明治34年）末の人口数（現住人口）と同時期の鉄道網、図6は人口密度を示したものである。この時期には、最も人口

の多い川越町が2万5千人、ついで熊谷町の1万4千人、本庄町、忍町がそれぞれ8千人台で続いていた。このように人口面で見ると首位の川越町、二位の熊谷町と三位以下が明確に分かれている。

人口密度では山地が大部分を閉める秩父郡では低いものの、北部から北東部～南部にかけての平野部の人口密度は300～500人/km<sup>2</sup>の間に収まっている。このように、明治期の埼玉県の平野部では人口が比較的均一に分布していた。そうした中でも人口密度が高い地域は、北部から北東部および南部であり、400人/km<sup>2</sup>以上の地域となっている。新井(1973)による、1876年（明治9年）の人口密度分布と比較すると、全体的に上昇しているものの、分布の傾向自体はあまり変化していない。

町の分布では、図6で人口密度が300人/km<sup>2</sup>以上となる、北東部から南西部の平野部で人口規模が小～中規模の町が比較的稠密に分布している。児玉郡、大里郡、比企郡、入間郡には丘陵地が含まれており、相対的に町の密度が低い、人口規模の大きい町が見られる。秩父郡では山地が大部分を占めており、表記されている町は二つだけだ

表3 業種ごとの立地状況

大分類	立地する町村数	小分類
小売業	40～	米穀,菓子,呉服太物,足袋,荒物,豆腐,菓,酒・調味料,たばこ,小間物
	30～39	青物,茶,桶,材木,糸繭,肥料,油,木綿・糸,乾物,金物 書籍・新聞,薪炭,建具,洋物,時計
	20～29	提灯,棒,畳,種苗・植木,果物,粉・製粉,ランプ・ガラス,籠,玩具,文房具 書籍・新聞,薪炭,建具,洋物,石油・石炭
	10～19	篩,飾り,絹糸,はかり,織物,牛豚肉,絵具・染料,雛人形,指物,箱 蒟蒻,牛乳,仏具・葬具,蚕種,馬・馬具,繊維器械,その他販売,甘藷,糶,筆筒 土物,染物,竹細工,銅鉄
	1～9	玉子,藍,入歯,漬物,食料品,鉄砲火薬,袋物,切手印紙,屑・回収,白 美術品,絹織物,蚕具,夜具,農具,撃剣・弓,藁製品,楮
サービス業	40～	理髪,旅館,医院・医師
	30～39	質,銀行,湯屋,運送
	20～29	仕立・裁縫,人力車
	10～19	馬車営業,待合所,鍼灸・按摩,周旋,その他サービス,劇場,代書,産婆
	1～9	芸者屋,下宿,金融,写真,水車業,易者,保険,通信,貸席,弁護士
土木職 建人 築・ 業	40～	なし
	30～39	鍛冶屋
	20～29	大工,表具師,ブリキ,車
	10～19	鋳掛師,その他職人,鳶職,左官,土木建築,請負業,石工,張物
	1～9	形付,彫刻業
卸売業	40～	なし
	30～39	なし
	20～29	米穀卸
	10～19	織物卸,麵製造,その他卸,酒・調味料卸,たばこ卸,糸繭卸,菓子卸,木綿製品卸 青物卸,荒物卸,小間物卸,絹製品卸,茶卸,甘藷卸,足袋卸,陶器漆器卸,肥料卸 薪炭卸,氷卸,金物卸,下駄・傘卸,油・石油卸,竹・材木卸,食料品卸 玩物・雛人形卸,果物卸,藁製品卸
	1～9	
製造業	40～	なし
	30～39	染物業,酒・醤油・味噌製造
	20～29	織物業
	10～19	製糸業,印刷,たばこ製造,繊維器械製造,油製造,食料品製造,その他製造
	1～9	小間物製造,足袋製造,その他器械製造,農具・蚕具製造,金物製造,鋳物製造

注：小分類内の並び順は立地町村数が多い順。

が、秩父大宮町の人口は7,000人をこえている。寄居町,小川町,越生町,飯能町は,山地と平地の境に形成されたいわゆる谷口集落に該当する。

次に『埼玉県営業便覧』の町並図から得られた機能数の分布を示したものが図7である。図5の人口の分布に比べ,本庄町など北部地域で機能数が多い傾向が見られる。機能数が最も多いのは人口と同様,川越町で956となっている。ついで本庄町が867,熊谷町が851と続いている。川越町の人口は本庄町の人口の約3倍だったのに比べ,機能数は1割程度多いに過ぎない。そこで,図7の円内に示される人口/機能数比を検討する。人口

／機能数比とは,人口を機能数で除したもので,値が大きいほど人口に比して機能数が少なく,小さいほど多いことを示す。これを見ると,全般的に北部～北東部の町村で低く,中部から南部にかけては高い傾向がある。足立郡の大和田町では,59.0と高くなっているが,これは町内に農業人口を多く含んでいるからであろう。また川越町も26.5と高いが,これは前章で検討したように川越町での町並図の網羅性が低いためと考えられ,実際にはさらに多くの機能数があったはずである。あるいは,商店の規模が大きく,1商店あたりの従業員が多いということも考えられる。

北部から北東部にかけての機能数の多い町のうち、本庄町、加須町、幸手町の人口／機能数比はそれぞれ10.0、7.1、10.9と特に低い。幸手町については、隣村の連続した町並も記載されていることが影響している。本庄町と加須町については網羅性が高いという点もあるが、特定の業種の機能数が多いという特徴がある。そこで、業種ごとの立地状況とその町村ごとの特徴を検討する。

## 2. 業種ごとの立地状況

表3は、業種ごとに立地している町村数を示したものである。ここで立地する町村が多い業種ほど最寄品で、低次な財・サービスと言える。小売業では米穀や菓子、呉服太物、足袋、荒物といったものが40以上の町村に立地しており、明治期以降に増加したと考えられる洋物商や時計商も30以上の町村に立地している。サービス業では理髪業のほか、質や湯屋、さらに銀行も30以上の町村に立地している。人力車業は20～29町村と、半分ほどで見られるだけであるが、実際はほとんどの町村に存在したと考えられる。たとえば松山町には「人力車停車場」が存在するが、「人力車業」は1軒のみとなっている。職人・土木建築業では鍛冶屋のみが30以上の町村に立地している。製造業では染物業と酒・醤油・味噌製造業が30以上の町村に立地している。

一方、立地している町村が少ない業種は、高次な財・サービスの場合と、地域の特産品や地場産業に関連した商品を扱う業種、また需要が少ない業種とに分かれるだろう。小売業では、飾りや雛人形、箱、入歯、袋物などは高次な財を扱う業種であり、牛乳などは明治期であり需要がまだ少なかったために立地が限られていたと考えられる。また楮（こうぞ）商は和紙製造と結びついた小川町でのみ見られる業種である。サービス業では、写真師や弁護士などが高次のサービスである。職人・土木建築業では、張物師、形付師、彫刻業などが高次の業種である。卸売業では米穀卸が22町村に立地しているものの、全般に立地数は少なく、高次の機能であると言える。製造業も全般に立地数は少なく、当時製造業は町の中ではそれほど重要な構成要素ではなかったことが伺われる。

表4 町村ごとの特化した業種

郡	町村名	特化した業種
北足立郡	1 浦和町	人力車(17)、下宿(6)、待合所(5)
	2 蕨町	鳶職(5)、牛豚肉(5)
	3 川口町	織物業(53)、繊維器械(8)
	4 草加町	鋳物製造(38)
	5 鳩ヶ谷町	織物卸(13)
	6 与野町	
	7 大宮町	
	8 上尾町	
	9 桶川町	
	10 鴻巣町	玩具(17)、雛人形(16)、籠(5)
	11 原市町	篩(5)
	12 志木町	
	13 大和田町	
入間郡	14 川越町	呉服太物(27)、米穀卸(25) 青物(23)、洋物(17)、粉・製粉(13) 織物卸(12)、紙(11)、玩具(10) 書籍・新聞(10)、織物(9) 飾り(8)、袋物(7)、文房具(7)、 繊維器械(7)、指物(6)、箆笥(6) 夜具(5)、張物(5)、石工(5)
	15 所澤町	織物卸(12)
	16 豊岡町	糸繭卸(6)
	17 入間川町	織物業(17)、車(6)
	18 坂戸町	
	19 越生町	絹織物(13)、絹製品卸(6)
	20 飯能町	絹糸(9)
比企郡	21 松山町	染物業(5)
	22 小川町	紙(33)、楮(22)、絹糸(13) 建具(12)、人力車(10) 絹織物(5)
秩父郡	23 秩父大宮町	蚕種(8)
	24 小鹿野町	
児玉郡	25 本庄町	糸繭(110)、青物(30) 古着・古道具(21)、金物(13) 貸席(11)、ランプ・ガラス(9) 種苗・植木(9)、周旋(7)
	26 児玉町	
大里郡	27 熊谷町	下駄・傘(33)、土物(25)、 果物(25)、染物業(15) 建具(14)、時計(8)、ブリキ(8) 石油・石炭(7)、周旋(6) 代書(6)、籠(5)、車(5) 土木建築(5)
	28 妻沼村	
	29 深谷町	貸席(16)、待合所(5)
北埼玉郡	30 寄居町	薪炭卸(5)糸繭卸(5)
	31 忍町	足袋製造(8)、足袋卸(8)
	32 加須町	織物卸(22)、石油・石炭(11) 織物(7)
南埼玉郡	33 不動岡村	
	34 羽生町	織物卸(14)、絹糸(6)
	35 騎西町	
北葛飾郡	36 岩槻町	油製造(5)
	37 粕壁町	
	38 菖蒲町	果物(17)
	39 久喜町	木綿・糸(21)、運送(13)、人力車(10)
北葛飾郡	40 越ヶ谷町	
	41 大澤町	芸者屋(6)
	42 栗橋町	
	43 幸手町	木綿・糸(21)、銅鉄(6)、鳶職(8)
	44 杉戸町	

注：カッコ内は機能数。

3. 町村ごとの業種立地の特徴

町村ごとの機能の特徴を見るために、当該業種の44町村合計の機能数の1割以上が当該町村に立地し、かつその機能数が5以上だった場合を当該町村において特化した業種と考え、算出した。表4はその結果である。ここで特化した業種が全く無い町村は、低次でかつ地域で顕著な特産品を持たない中心地と言える。

川越町では19の業種があげられているが、地域の特産品や地場産業の業種は見られず、米穀卸や飾り職、箆筒商といった高次な財・機能から構成されているのが特徴である。ついで熊谷町では12の業種があげられているが、時計商や代書を除けば低次な財が多い。また染物業は現在でも『熊谷染』があることから、熊谷の地場産業と言える。本庄町では8業種があげられるが、特筆すべきは糸繭商の多さであり、110もの糸繭商が見られる(図8)。44町村全体で糸繭商は381なので、3割が本庄町に集積している。また本庄町の機能数867のうち1割以上が糸繭商ということになり、糸繭に特化して発展した町であったことがわかる。小川町では6つの業種があげられているが、特に和紙の製造に関係する楮と紙を扱う商店が多く、地場産業型である。原料である楮を扱う商店が多いということは、原料を他地域に依存していたことを示している。鴻巣町では玩具や雛人形などの主に地場産業を扱う4つの業種があげられている。浦和町では4つの業種があげられているが、サービス業を中心としたもので、県庁の存在が大きかったことがわかる。

これら以外の町でも特定の業種に特化した町が散見される。蕨町では織物業が53も立地している。当時蕨町では「双子織」とよばれる綿織物が有名であり、それが農村の副業としてではなく専業として行われていたことがわかるが、これには街路から離れた場所の数字も含まれている(図4)。加須町や羽生町では織物卸が多く、周辺の農村部で作られた「青縞」とよばれる綿織物の集散地となっていた。他に織物関係では所澤町・鳩ヶ谷町・川越町の織物卸、入間川町の織物業が目立って

商商	職店商境店商
繭繭	繭繭繭繭繭繭
糸糸	繭糸糸糸糸糸糸
糸糸糸糸糸	大飲鋳印菓
繭繭繭繭繭	工食 判子
商商商商商	職店屋師屋
小荻野野丸	村池高岩井
杉野口口山	岡田岡本上
増	佐
次長喜喜孝	寅キ鐵清一
郎吉藏作作	吉セ藏吉郎

図8 糸繭商がならば本庄町の町並

いる。また幸手町では白木綿を扱う業者が多かった。絹織物・絹糸では、越生町、小川町、飯能町で関連商店が見られ、周辺の農村で養蚕から製糸・絹織の工程までが一貫して行われていたことがわかる。他に繊維産業では、忍町の足袋製造・足袋卸がある。

繊維関連以外では、川口町の鋳物製造業が顕著であり、44町村合計で42しかない鋳物製造業のうち38が立地している。食料品では、川越町の青物、熊谷町の土物<sup>2)</sup>・果物がある。さらに菖蒲町では

2)ただし熊谷町では青物商が2軒しか見られないので、土物商と青物商が同一のものと見なされていた可能性もある。

果物商が17軒見られる。これは明治中期以降、菖蒲町を中心とした地域で梨栽培が普及したことを反映したものであろう。

#### 4. 44町村の階層区分

業種ごとの特徴と、町村ごとの業種数および機能数・特徴がわかったところで、44町村を階層区分した。一般に中心地研究では、小売業の立地によって階層区分することが多いが、この時期には製造と販売が明確に分かれていないことや、資料の特徴をいかすため、卸売業や製造業を含む174業種すべてを利用する。

図9は業種数と機能数の関係を示したものである。川越町は、業種数・機能数ともそれ以下を引き離しており、先に考察したように高次な財を扱う業種を多く立地させていることから、第1階層とする。前章で述べたように、営業便覧での川越町の網羅性があまり高くないので、実際にはさらに多くの機能数があったと考えられる。第2階層は本庄町と熊谷町であり、それ以下の町村とは機能数において300もの差をつけている。本庄町と熊谷町では、業種数・機能数ともに本庄町の方が若干ではあるが上回っている。しかし人口では熊谷町の方が5000人ほど多くなっており、他の資料からの検討も必要であろう。第3階層は加須町、幸手町、深谷町、浦和町、鴻巣町、松山町、小川町の7町とした。第3階層と次の階層とは機能数で100近い差が見られる。さらに第4階層として20町村、第5階層として14町を区分した<sup>3)</sup>。

表5は階層ごとに町村の特性を示したものである。1業種あたり機能数（機能数を業種数で除した数値）を見ると、第1・第2階層では7を越えており、第3階層では4.7～5.6、第4階層では3.1～4.2、第5階層では2.2～3.1と、階層が高いほど業種数が多いだけでなく、1業種あたり機能数

も多くなるのがわかる。この値は図9における階層ごとの傾きの差異に対応するものでもある。

分類した階層を地図に示したものが図10である。第2階層の二つの町は埼玉県北部に位置しており、また第3階層の7つの町のうち浦和町以外は中央より北側に位置している。そのかわり第4階層から第5階層の中心地は、中部から南部にかけて多く存在している。

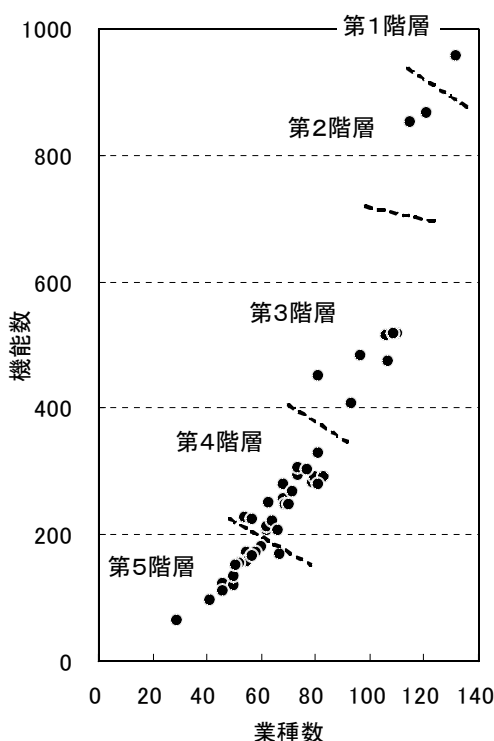


図9 業種数と機能数および階層区分

3) 吉津(1978)の階層区分では、第I階層が東京市、第II階層が横浜市となっており、第III階層で川越町が出てくる。熊谷町はIV、本庄町はVとなっており、IV・Vが本研究の第2階層に相当することになる。本研究で第3階層とした7町は、すべてVIの階層に含まれているが、VIの階層には本研究の第3階層から第4階層の町が含まれ、一部は第5階層の町も含まれている。同様に、Sugiura(1991)の区分とも異なっている。階層区分に差異が生じるのは、利用する資料や分類方法が異なるという点もあるが、対象とする空間スケールが異なっているという点も大きな理由の一つと考えられる。

表5 階層別にみた町村の特性

階層区分	町村名	1901年末 人口(人)	機能数	業種数	人口/機 能数比	1業種あた り機能数
第1階層	14 入間郡 川越町	25,336	956	132	26.5	7.2
	25 児玉郡 本庄町	8,673	867	121	10.0	7.2
第2階層	27 大里郡 熊谷町	13,930	851	115	16.4	7.4
	32 北埼玉郡 加須町	3,683	518	110	7.1	4.7
第3階層	43 北葛飾郡 幸手町	5,620	517	109	10.9	4.7
	1 北足立郡 浦和町	7,846	514	106	15.3	4.8
	10 北足立郡 鴻巣町	5,561	482	97	11.5	5.0
	29 大里郡 深谷町	7,119	473	107	15.1	4.4
	22 比企郡 小川町	5,392	450	81	12.0	5.6
	21 比企郡 松山町	6,225	407	93	15.3	4.4
	17 入間郡 入間川町	4,661	328	81	14.2	4.0
第4階層	7 北足立郡 大宮町	7,132	304	74	23.5	4.1
	39 南埼玉郡 久喜町	2,858	302	77	9.5	3.9
	4 北足立郡 草加町	5,052	295	74	17.1	4.0
	31 北埼玉郡 忍町	8,327	292	83	28.5	3.5
	30 大里郡 寄居町	3,638	290	80	12.5	3.6
	23 秩父郡 秩父大宮町	7,166	283	79	25.3	3.6
	15 入間郡 所澤町	5,541	280	68	19.8	4.1
	34 北埼玉郡 羽生町	3,753	279	81	13.5	3.4
	40 南埼玉郡 越ヶ谷町	3,697	267	72	13.8	3.7
	2 北足立郡 蕨町	6,297	256	68	24.6	3.8
	36 南埼玉郡 岩槻町	6,392	250	63	25.6	4.0
	37 南埼玉郡 粕壁町	5,840	247	70	23.6	3.5
	35 北埼玉郡 騎西町	2,557	246	69	10.4	3.6
	24 秩父郡 小鹿野町	4,196	227	54	18.5	4.2
	26 児玉郡 児玉町	4,433	224	57	19.8	3.9
	19 入間郡 越生町	4,065	221	64	18.4	3.5
	5 北足立郡 鳩ヶ谷町	5,860	211	62	27.8	3.4
	第5階層	3 北足立郡 川口町	5,114	206	62	24.8
28 大里郡 妻沼村		2,401	205	66	11.7	3.1
12 北足立郡 志木町		3,012	179	60	16.8	3.0
38 南埼玉郡 菖蒲町		5,041	172	58	29.3	3.0
6 北足立郡 与野町		4,406	171	55	25.8	3.1
16 入間郡 豊岡町		3,829	170	67	22.5	2.5
44 北葛飾郡 杉戸町		3,952	167	57	23.7	2.9
9 北足立郡 桶川町		3,382	157	55	21.5	2.9
20 入間郡 飯能町		6,409	153	52	41.9	2.9
42 北葛飾郡 栗橋町		2,919	152	51	19.2	3.0
18 入間郡 坂戸町	3,419	133	50	25.7	2.7	
8 北足立郡 上尾町	3,008	122	46	24.7	2.7	
11 北足立郡 原市町	1,963	118	50	16.6	2.4	
41 南埼玉郡 大澤町	2,449	111	46	22.1	2.4	
33 北埼玉郡 不動岡村	3,412	95	41	35.9	2.3	
13 北足立郡 大和田町	3,718	63	29	59.0	2.2	

表6は、階層ごとに町村の数および間隔<sup>4)</sup>を求めたものである<sup>5)</sup>。クリスタラーの中心地理論の市場原理においては、階層が上がるごとに中心地の数は三分の一になり、中心地間の距離は $\sqrt{3}$ 倍

になる。その観点で比較すると、第1階層から第4階層までは、数・間隔ともにおおむね市場原理に従っているとと言える。しかし第4階層から第5階層にかけては、数・間隔は規則的な変化に従っ

4)ここで間隔とは、最寄町村間の平均距離であり、対象階層における各町村から最も近い町村との直線距離をそれぞれの町村ごとに求め、その平均をとったものである。

5)ただし、山地で囲まれている秩父大宮町と小鹿野町は除いた。

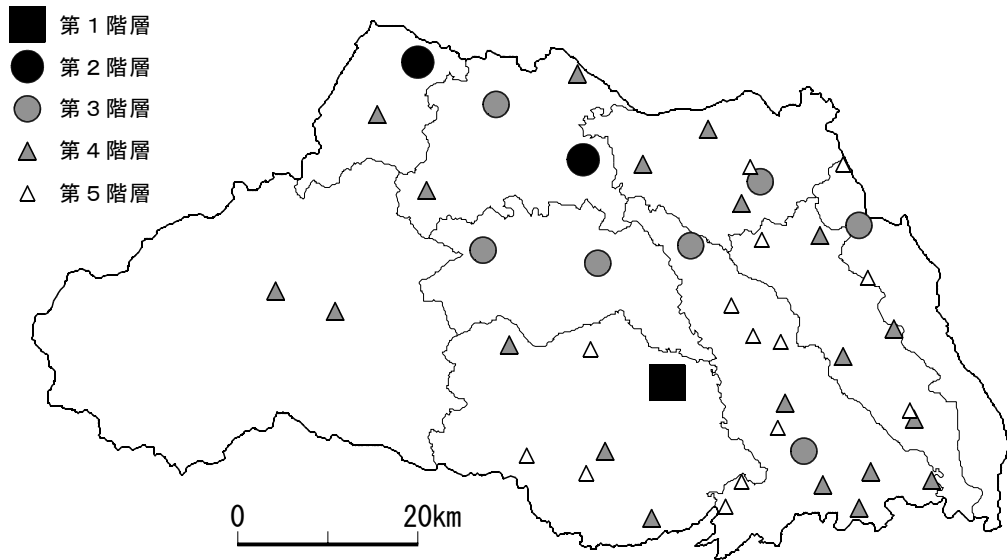


図10 階層ごとの町村の分布

表6 階層別にみた中心地の間隔

階層	町村数	最寄町村間の平均距離(km)	標準偏差	下位階層との平均距離の比
第1～2階層	3	23.06	2.51	1.92
第1～3階層	10	12.02	2.29	1.72
第1～4階層	28	6.98	2.27	1.26
第1～5階層	42	5.53	2.53	—

注：最寄町村間の平均距離とは、各町村から最も近い町村との直線距離を求め、その平均をとったものである。秩父大宮町と小鹿野町は除く。

ていない。これは第5階層に区分した町村が少ないために起因すると考えられる。すなわち、第5階層には『埼玉県営業便覧』に掲載されていない村が実際には含まれている。もし該当する村を追加すれば、中心地の数が増加し、間隔は短くなるだろう。この点を除けば、埼玉県の平野部の中心地の分布はおおむね市場原理に従った数・間隔で立地していると言える。

しかし、数・間隔だけでなく方向に着目すると、必ずしも市場原理に従っていない。特に第1階層の川越町の東側から南側にかけては、第2階層の町が存在しない。二つの町が隣接する越ヶ谷町・大沢町の機能数を合わせても378で、第2階層に

は遠く及ばない。また岩槻町の記載には氏名のみ記載が多いが(表2)、もしこれが記載漏れであったとしても、第2階層には達しないと思われる。このように、明治期の埼玉県では、南部から東部にかけて低次な中心地が多く、北部から北東部にかけては高次な中心地が多いという特徴が見られる。

#### IV おわりに

本研究では、明治期の埼玉県の町並図である『埼玉県営業便覧』の資料的特性を検討し、さらに同

時期の中心地の機能構成を明らかにして階層区分した。その結果をまとめると、次のようになる。まず『埼玉県営業便覧』では、掲載されている町村ごとにその網羅性が異なっており、一本の主要街路に沿って形成されている町では網羅性が高く、面的な市街地の広がりを持つ町では横道や路地などが掲載されないため、網羅性が低くなる傾向がある。特に川越町や川口町では網羅性が低い。町並図と業種をもとに業種を分類し、業種ごとの特性や町村ごとの立地状況を検討したところ、立地する町村数の少ない業種は、いわゆる高次な財だけでなく、その地域の地場産業や周辺の農業に関連した業種も多いことがわかった。中でも、本庄町の糸繭商は群を抜いて多く、他にも川口町の鋳物製造業や、蕨町の織物製造業、小川町の和紙関連業種などで特徴が見られた。

さらに44町村ごとの業種数と機能数のデータを用いて、町村を5つの階層に区分し、その分布の特徴を検討した。その結果、当時の埼玉県の平野部の中心地は、数や間隔についてはおおむねクリスタラーの中心地理論の市場原理に従って立地していたと言える。ただし、方向については東部から南部にかけて第2階層の町が存在しないといった偏りが見られた。

今後の課題としては、他の群馬県、栃木県の営業便覧に記載されている町を合わせた分析があげられる。その際には、資料のデータベース化などが今後の営業便覧の活用を考える際に有効であろう。また、戦後になると埼玉県の人口増加の中心は東京に近い南部に移り、卸売業の中心も川越から大宮に移る。このような中心地の変化も検討する必要がある。

さらに『埼玉県営業便覧』の町並図を見ると、現在でも営業している商店が散見される。地理教育における身近な地域の学習や、歴史教育におけ

る身近な地域の歴史の学習の資料としても有効と考えられる。

本研究に際しては、平成17-18年度文部科学省科学研究費補助金（若手研究B）「時系列地図表示システムの開発とその教育分野での応用に関する研究」の一部を使用した。また本研究は飯田貴美子が2004年度に埼玉大学教育学部に提出した卒業論文がもととなっている。

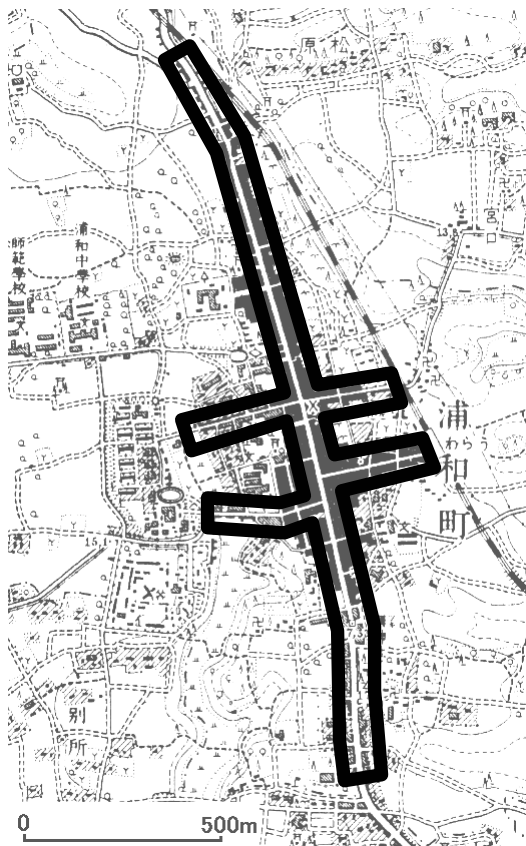
## 文 献

- 新井寿郎 1973. 明治・大正期における埼玉県の人口—その1—。埼玉研究（埼玉地域研究会），24，1-12
- 井上政一 1983. 文明開化業種の地域的展開—明治40年の栃木県を事例として—。近代の歴史地理（歴史地理学紀要25），古今書院，123-157.
- 川崎俊郎 1996. 秩父大宮における市街の拡大と商家の変遷。歴史地理学調査報告，7，35-48.
- 杉浦芳夫 1992. 『文学の中の地理空間—東京とその近傍—』古今書院.
- 田村正夫 1980. 『商業地域の形成—首都通勤圏北西境—（増補改訂版）』文化書房博文社.
- 富田和暁 1991. 『経済立地の理論と実際』大明堂.
- 森川 洋 1987. わが国における中心地研究の動向と問題点。地理学評論，60A，739-756.
- 吉津直樹 1978. 明治期・関東地方における銀行の立地過程—とくに中心地体系との関連において—。人文地理，30，406-428.
- Sugiura, Y. 1991. A map-transformation approach to the location of central places: the case of the central Kanto region in preindustrial Japan. *Environment and Planning A*, 23, 969-985.

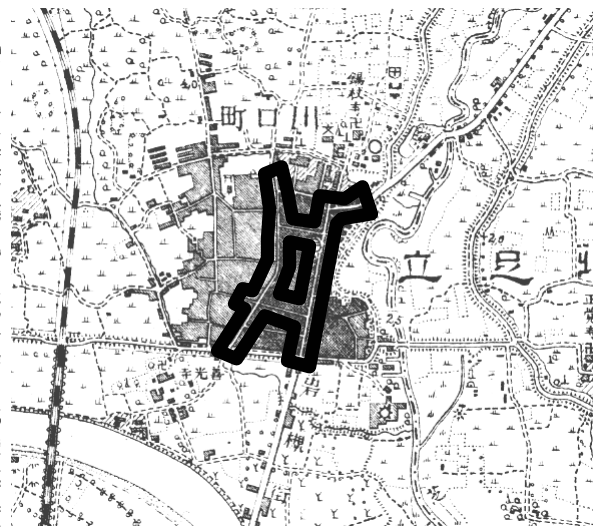
## Particularity of the 'Saitama Business Directory' and the Function of Central Places in Saitama Prefecture, Meiji Era

Kenji TANI (Dept. Geography, Saitama Univ.),  
Kimiko IIDA (Kitamoto Higashi Junior High School)

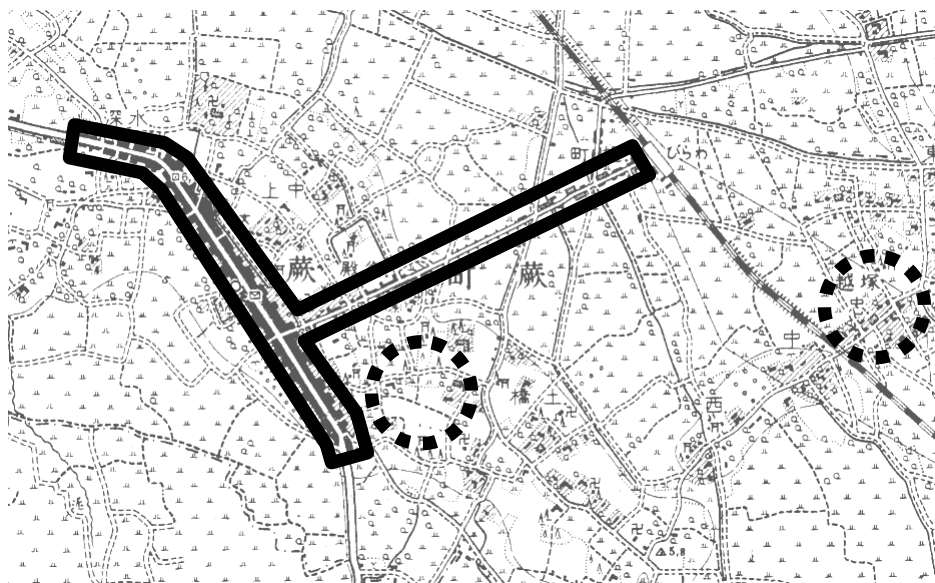




1. 浦和町

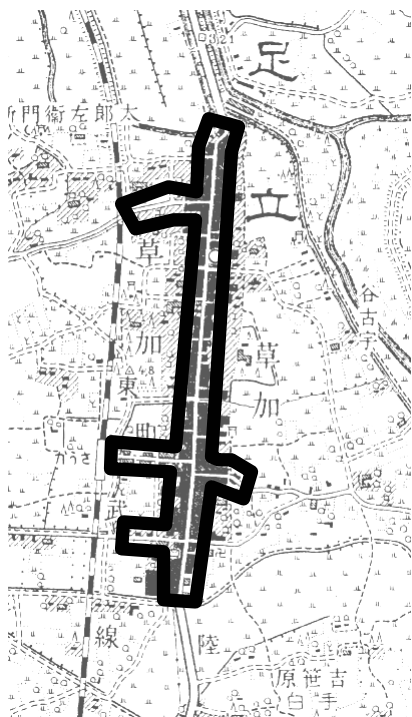


3. 川口町

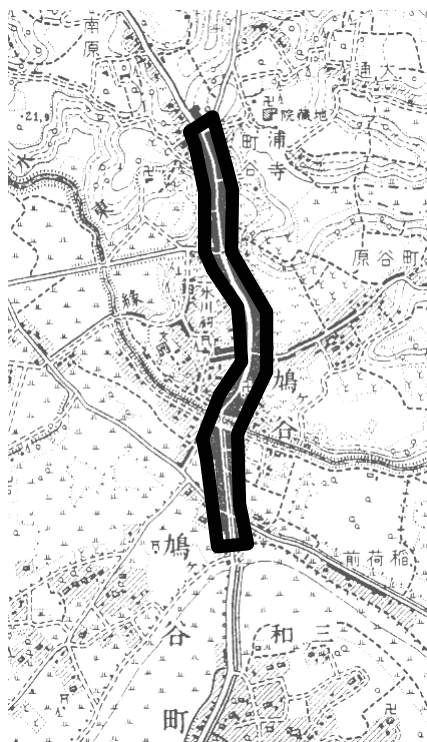


2. 蕨町

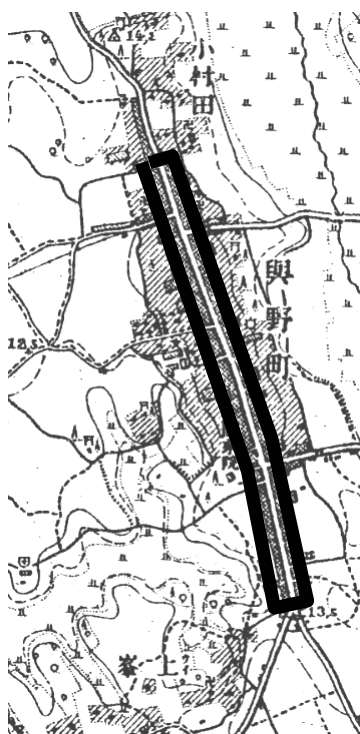
資料1 『埼玉県営業便覧』の町並図の記載範囲（地形図については表2参照）



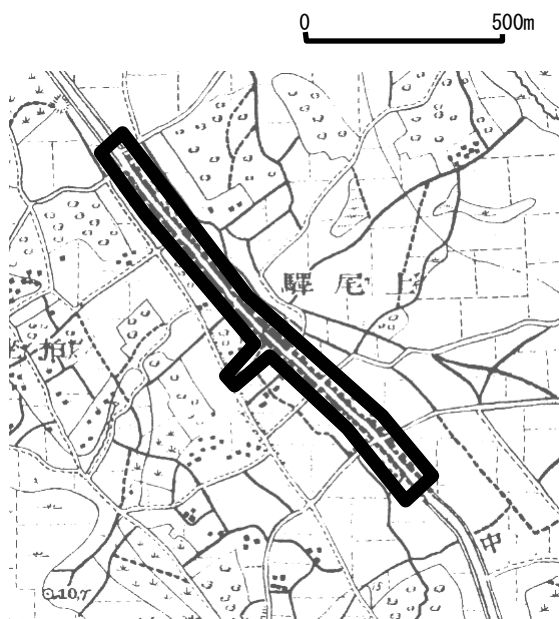
4. 草加町



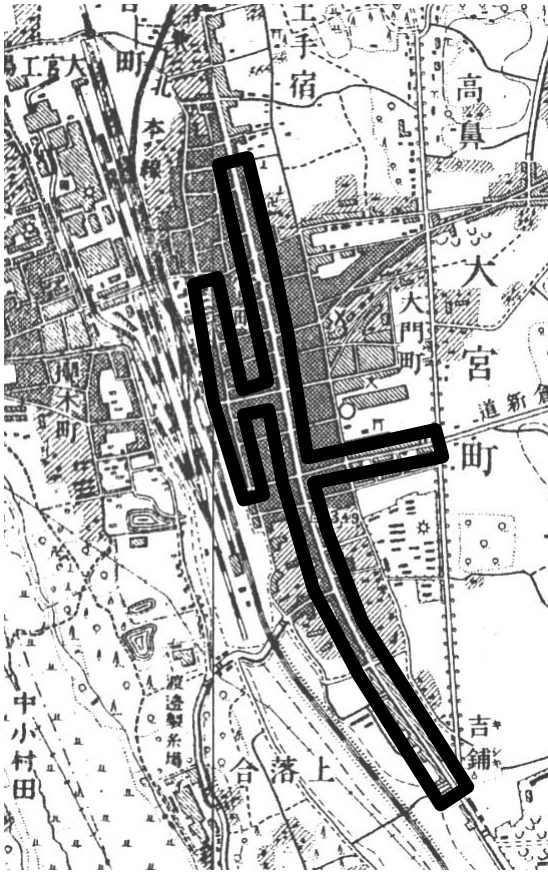
5. 鳩ヶ谷町



6. 与野町

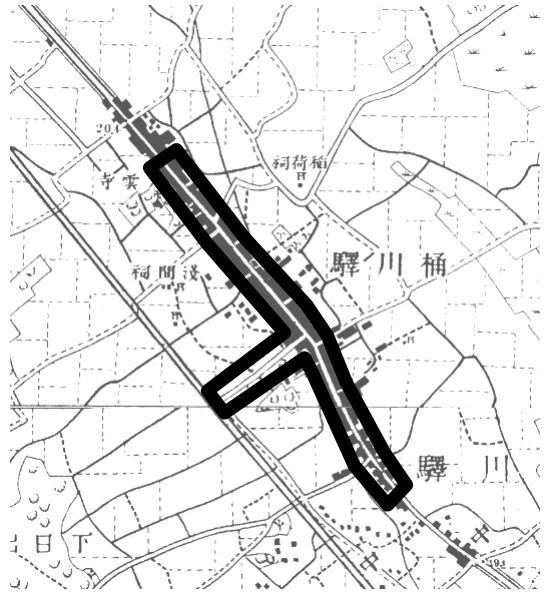


8. 上尾町

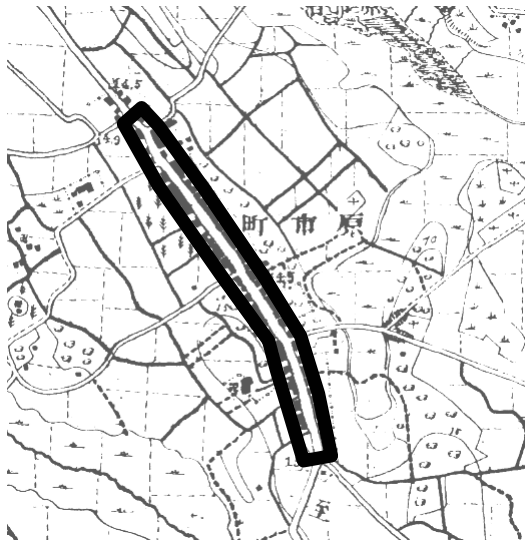


7. 大宮町

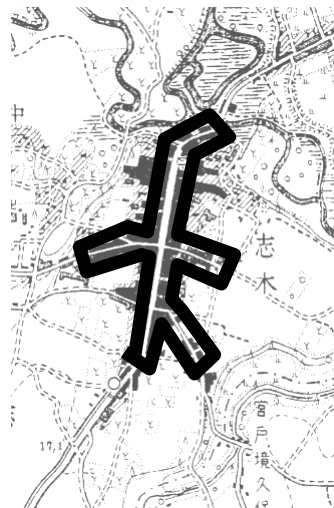
0 500m



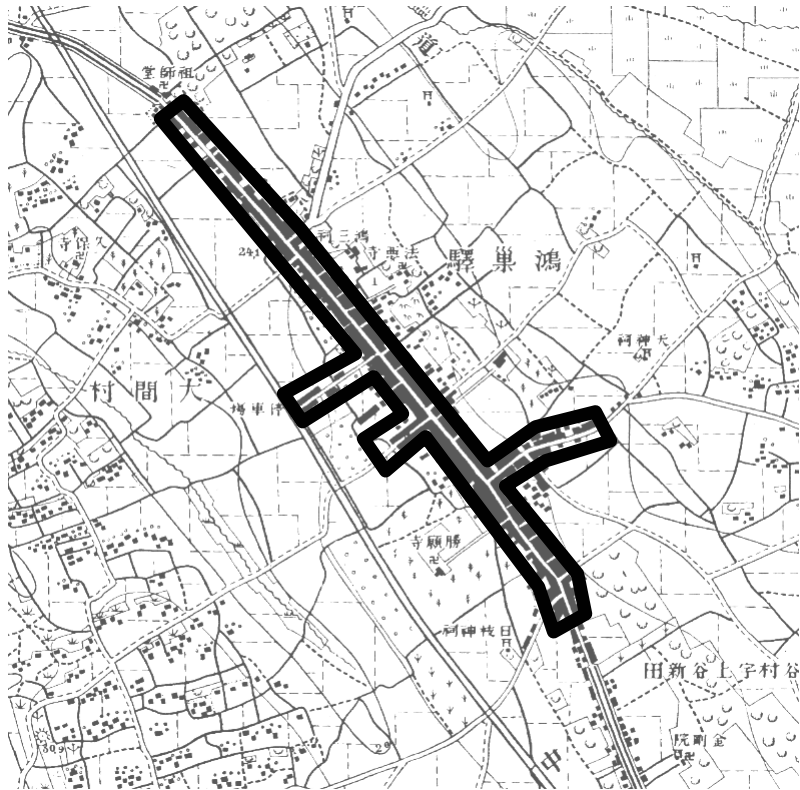
9. 桶川町



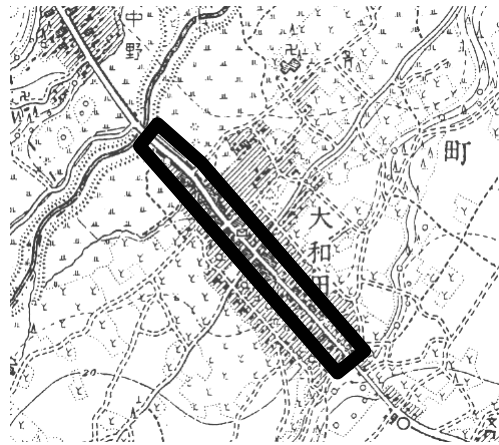
11. 原市町



12. 志木町

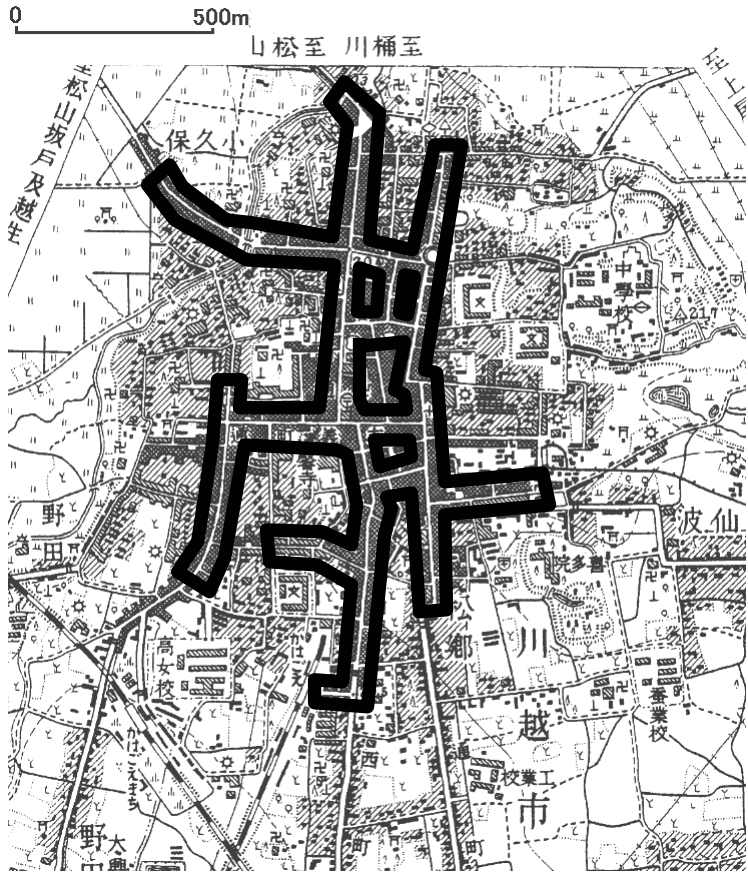


1. 鴻巣町

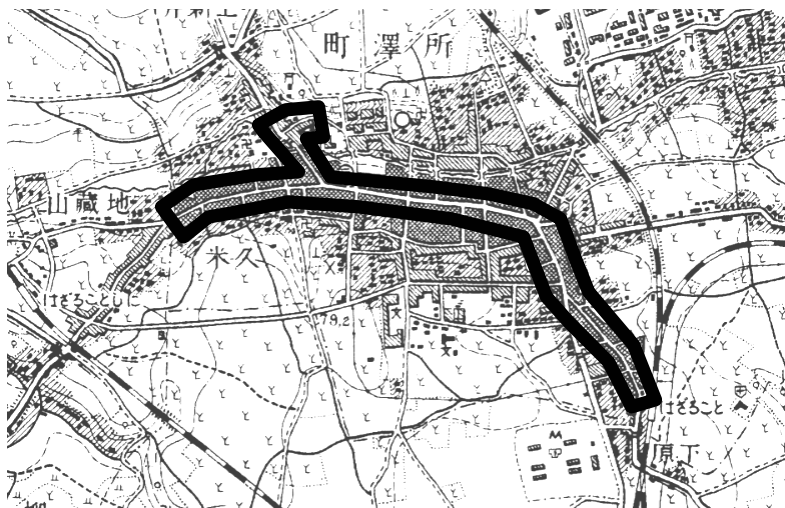


13. 大和田町

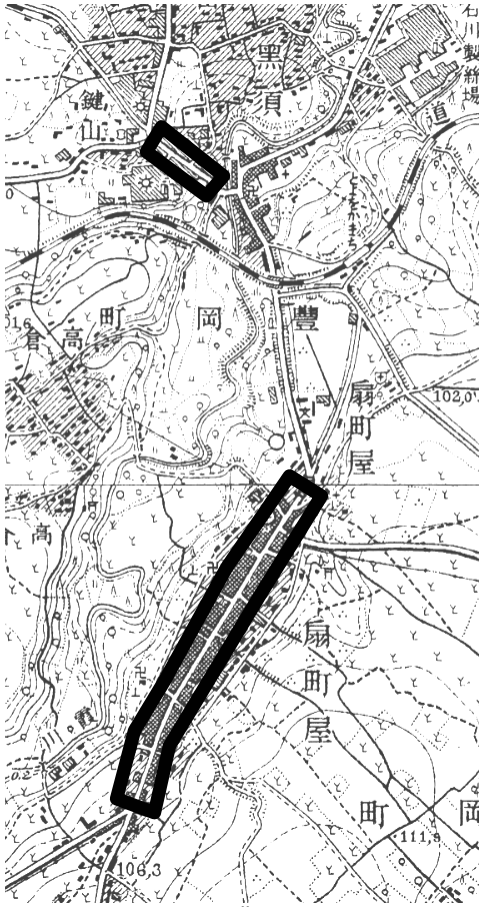
0  500m



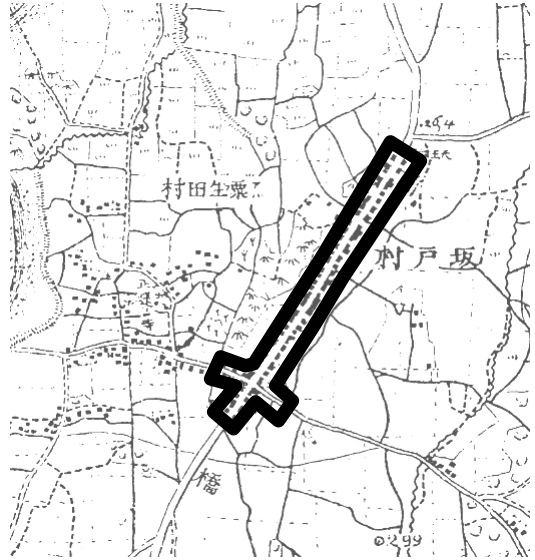
14. 川越町



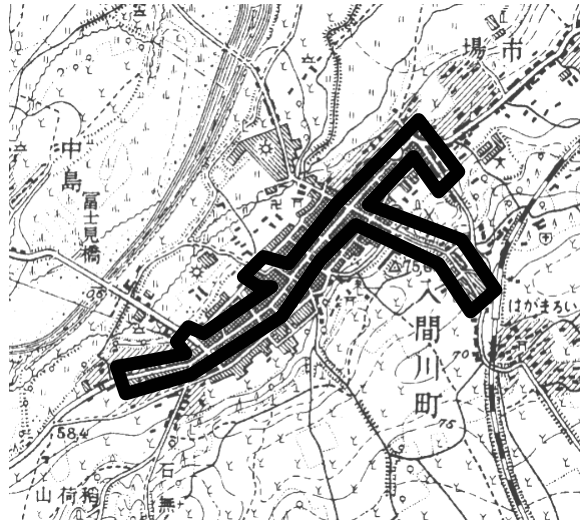
15. 所澤町



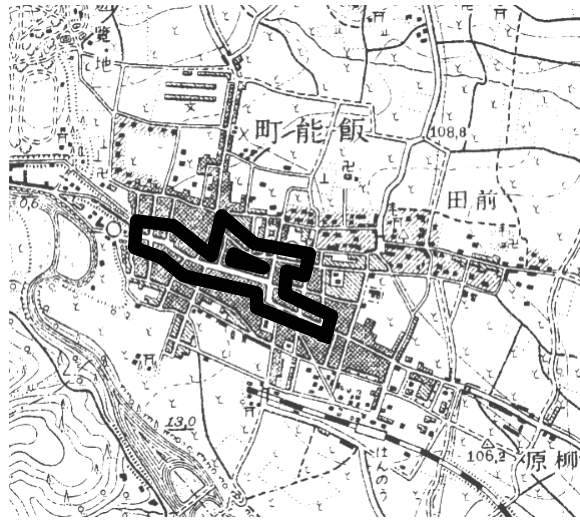
16. 豊岡町



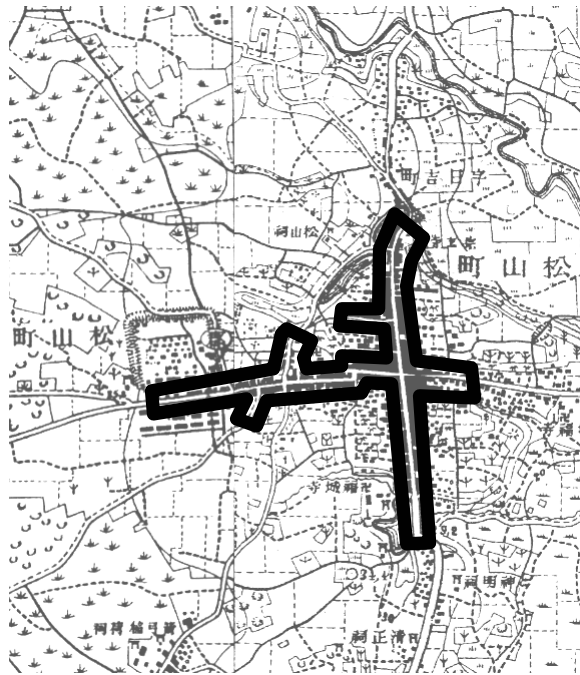
18. 坂戸町



17. 入間川町

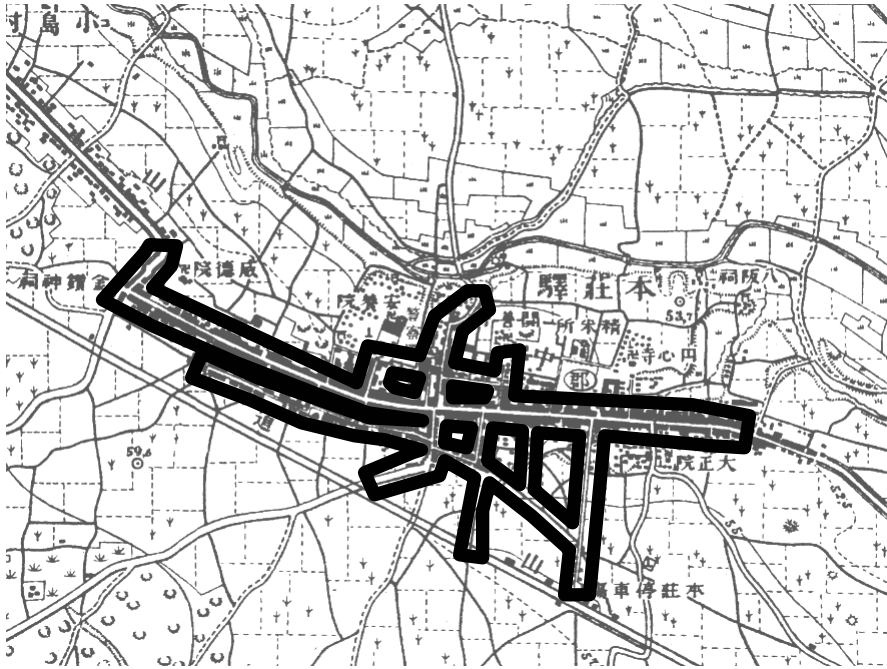


20. 飯能町

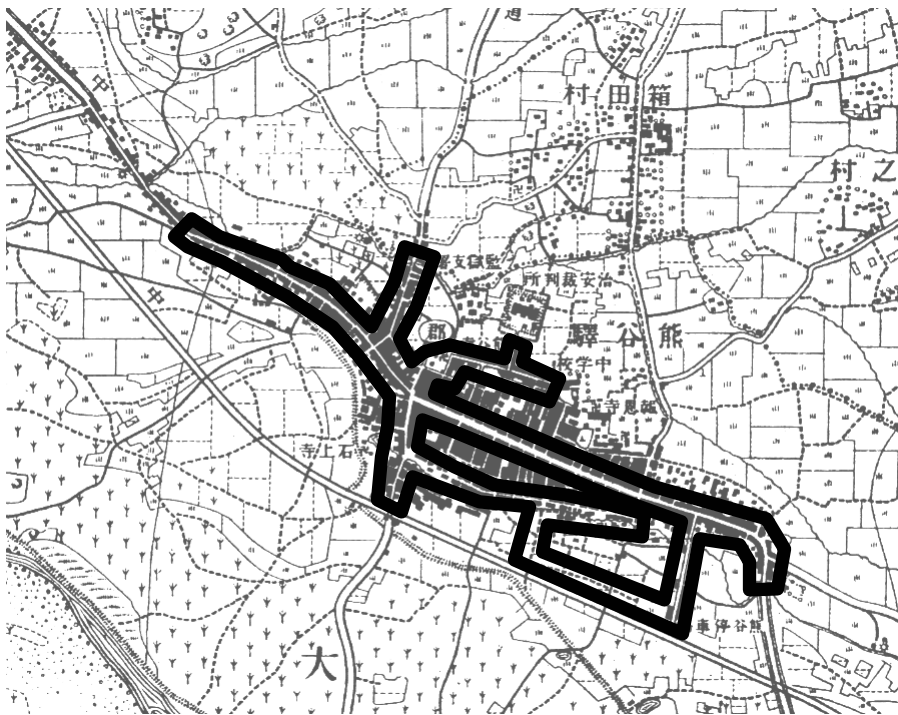


21. 松山町





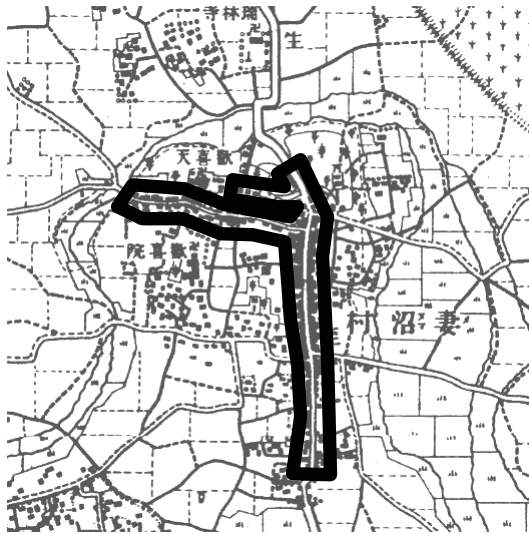
25. 本庄町



27. 熊谷町

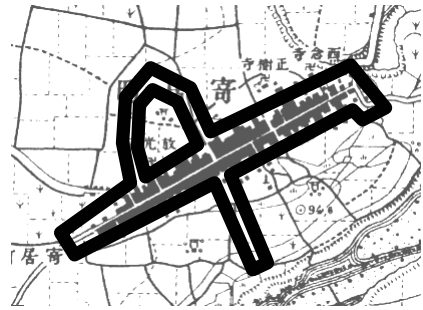
0 500m



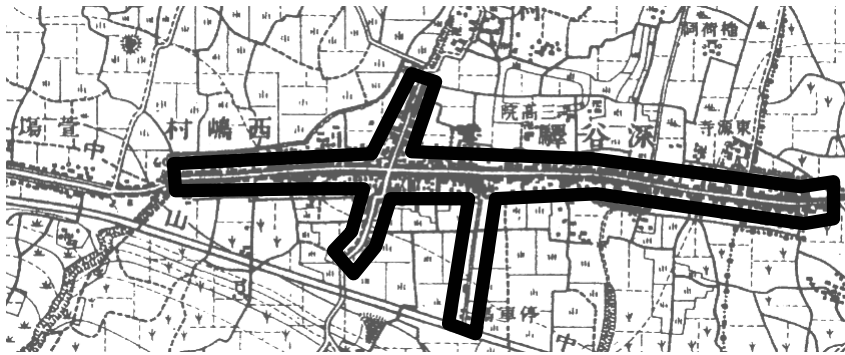


28. 妻沼村

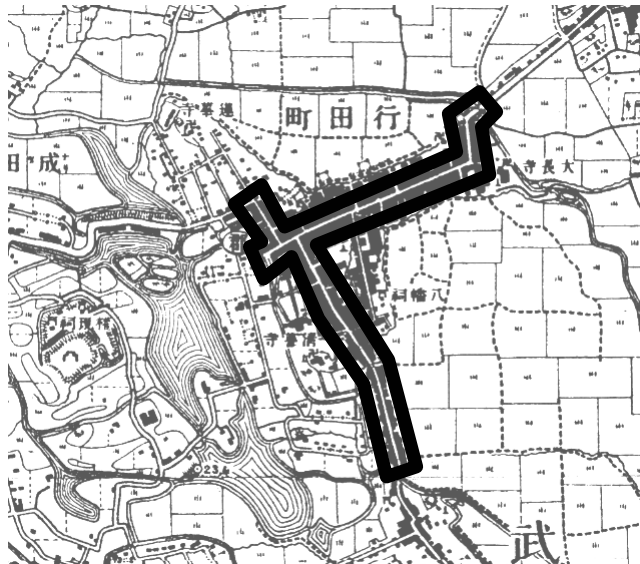
0 500m



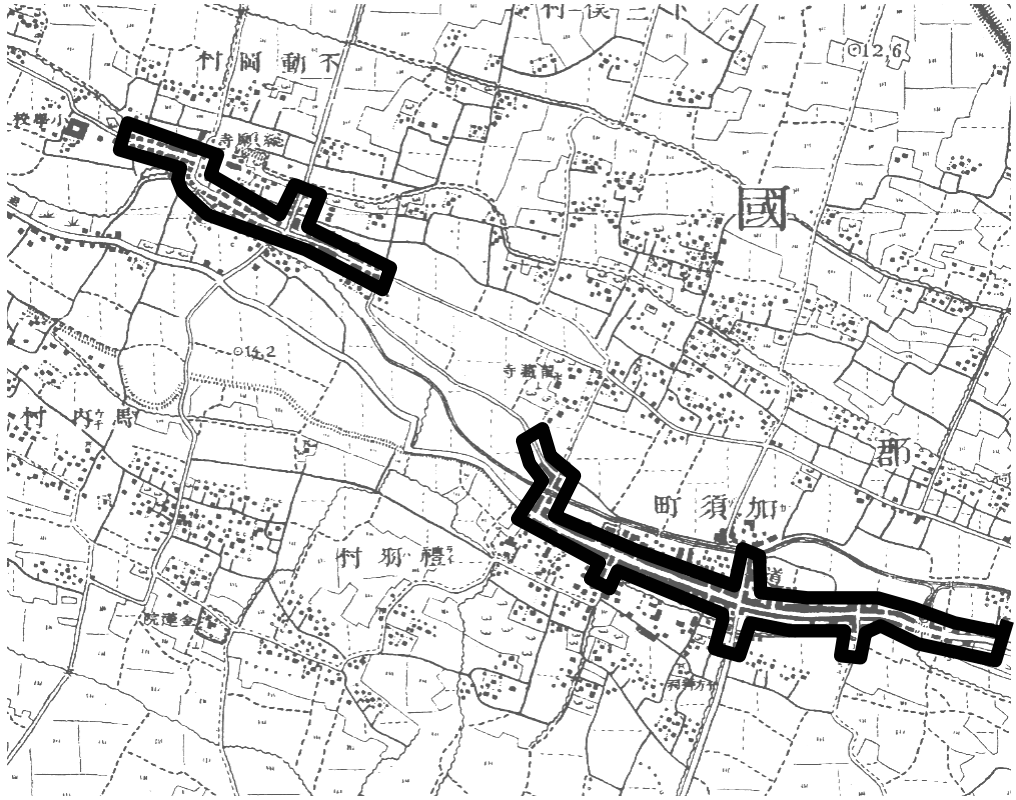
30. 寄居町



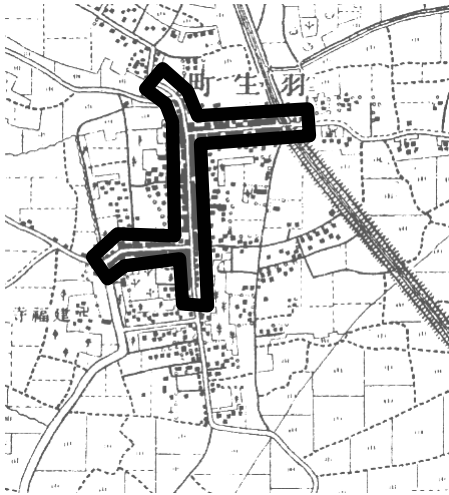
29. 深谷町



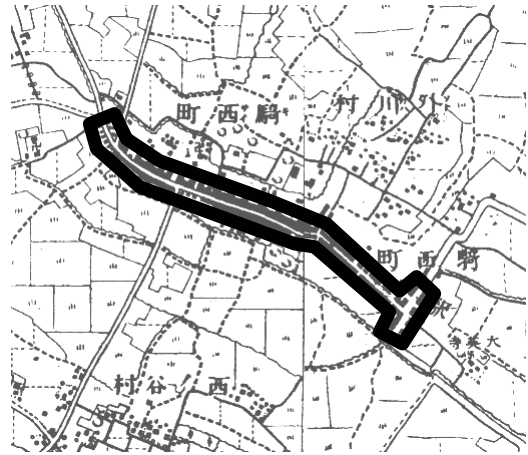
31. 忍町



32・33. 加須町・不動岡村

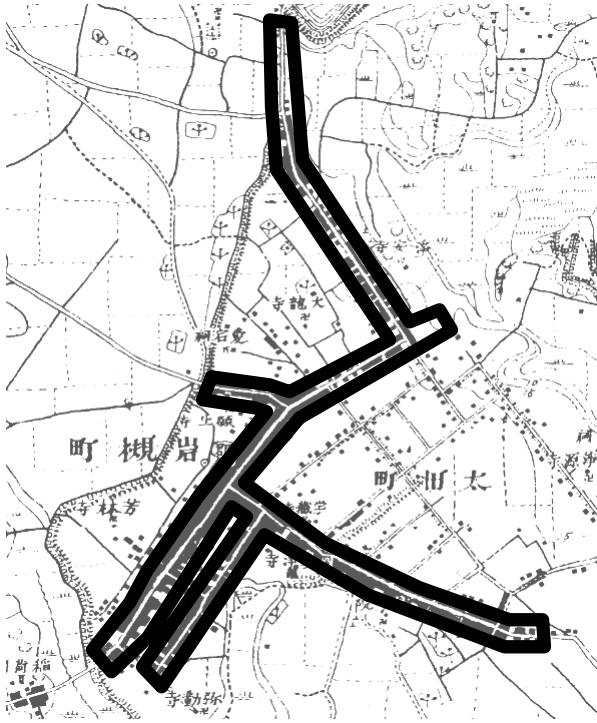


34. 羽生町



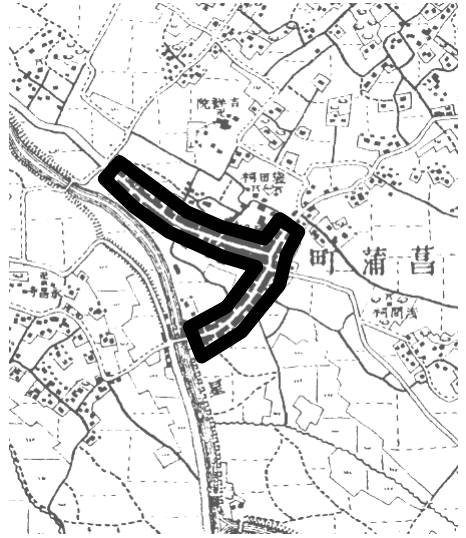
35. 騎西町

0 500m

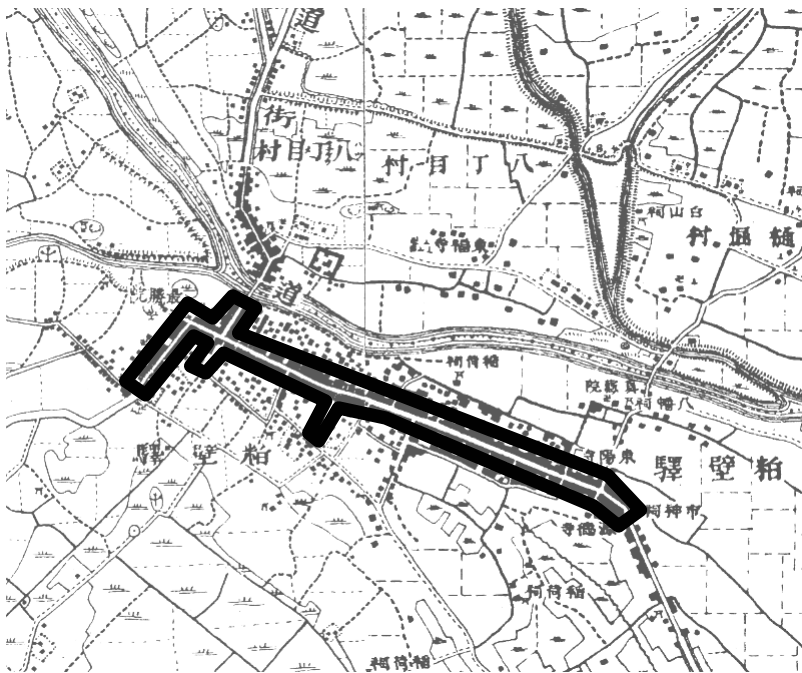


36. 岩槻町

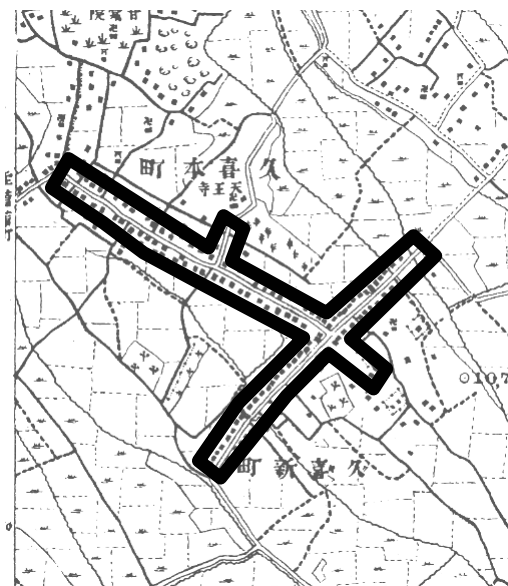
0 500m



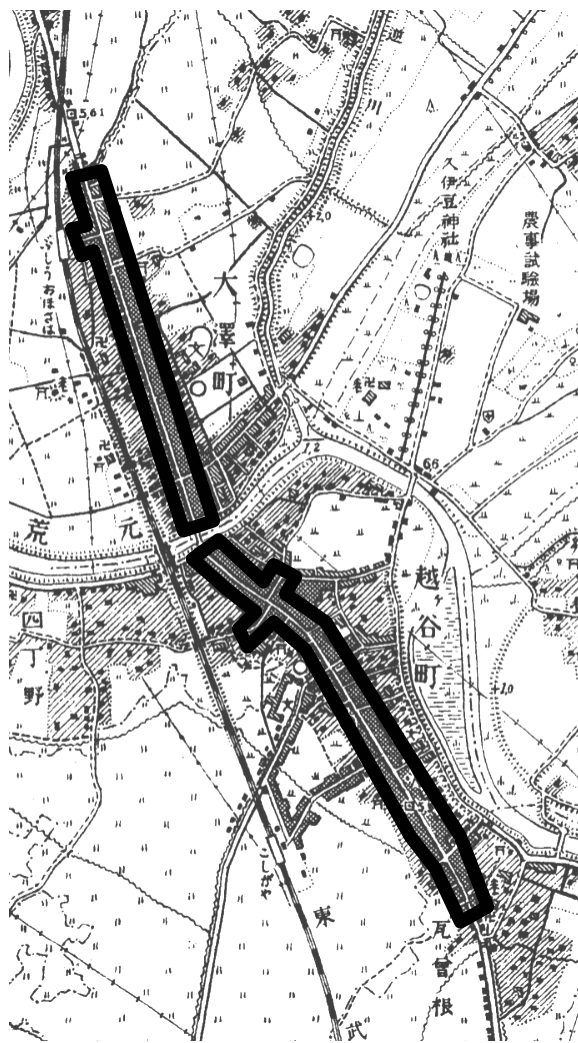
38. 葛蒲町



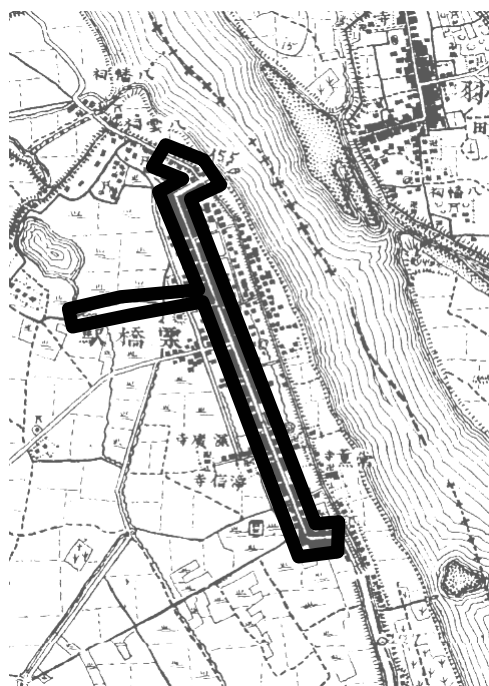
37. 粕壁町



39. 久喜町

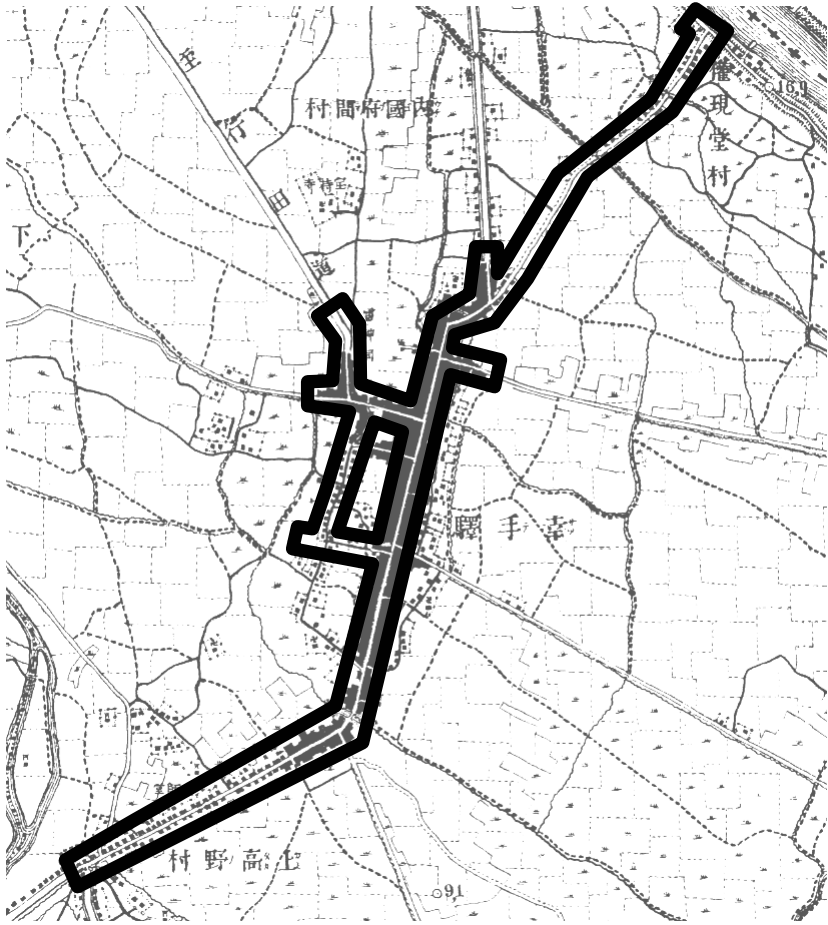


40・41. 越ヶ谷町・大澤町

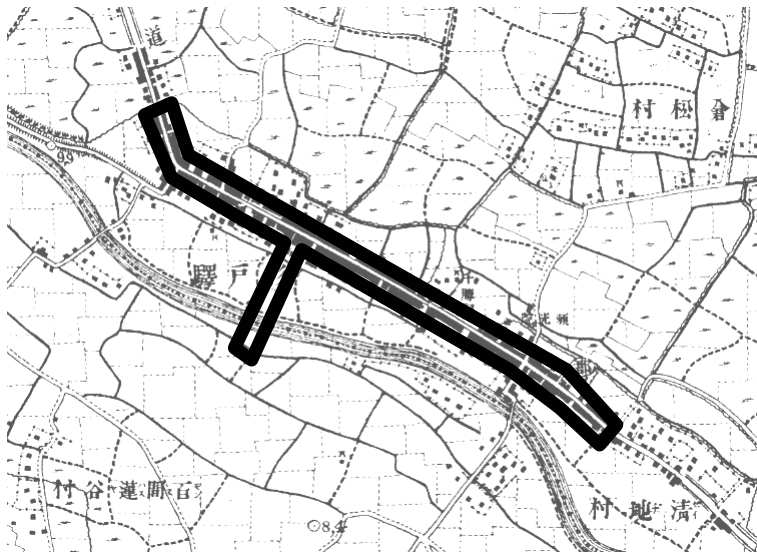


42. 栗橋町

0 500m



43. 幸手町



44. 杉戸町

0 500m

## 資料2 業種分類内訳

大分類	中分類	小分類	主 な 内 訳
小 売 業	食 料 品	1 米穀	米, 米穀, 精米, 白米, 穀物, 穀, 穀物, 雑穀, 雑穀小麦粉 雑穀白米, 白米小麦粉, 麦糠, 米穀粉, 米雑穀
		2 青物	青物, 八百屋, 八百物, 青物塩物, 青物乾物, 青物魚, 青物共同市場
		3 甘藷	甘藷, 芋, 甘藷, 焼芋
		4 土物	土物, 土物共同市場, 土物漬物
		5 豆腐	豆腐, 豆腐製造
		6 蒟蒻	蒟蒻, 蒟蒻素麺, 蒟蒻製造
		7 乾物	乾物
		8 漬物	漬物
		9 魚	魚, 鯉節, 生魚, 塩魚, 海産物, 乾魚, 干塩魚, 鮮魚・塩魚, 川魚
		10 鳥肉	鳥, 鳥屋, 鳥肉
		11 牛豚肉	牛豚肉, 牛肉, 獣肉, 豚屋, 豚鶏肉, 馬肉, 野獣売買, 肉
		12 玉子	鶏卵, 鳥玉子, 玉子
		13 牛乳	牛乳, 牛乳搾取所
		14 果物	果物, 菓物, 水菓子
		15 菓子	菓子, 団子, 餅, 餅菓子, 煎餅, 飴, 饅頭, パン
		16 水	製氷, 凍水, 氷
		17 粉・製粉	製粉, 挽割屋, 割麦, 水車製粉, 小麦粉, メリケン粉, 割屋, 糠, 白米挽割 白米粉, 搗米, 麦粉, 粉, 粉名
		18 酒・調味料	酒, 醤油, 味噌, 醤油味噌, 味噌醤油塩, 塩, 砂糖, 砂糖醤油, 醤油塩, 酒屋 醤油味噌塩, 食塩, 味噌醤油酢塩, 酒醤油味噌塩, 洋酒, 酒類
		19 食料品	青麴小売, 干饅頭, 天麩羅, 麴, 麴屋, 豆, 煮豆
		20 茶	茶, 茶屋, 茶商, 製茶, 製茶, 製茶商, 製茶買入
		21 たばこ	たばこ, たばこ紙
		22 糍	糍, 麴
衣 類	23 呉服太物	呉服太物, 呉服反物, 太物, 呉服	
	24 染物	染物, 染絹	
	25 足袋	足袋, 足袋股引, 足袋帽子, 足袋洋物, 足袋底	
	26 夜具	蒲団, 布団, 綿夜具, 蚊帳, 蚊帳蒲団, 夜具, 夜具布団蚊帳	
	27 小間物	小間物, 化粧品, 団扇, 西洋小間物, 蠟燭, たばこ具, 煙管, 小間物文具 小間物袋物, 和洋雑貨化粧品	
日 用 品	28 袋物	袋物	
	29 印判	印判, 印判彫刻, 印判師, 印刻師, 印章ゴム印, 印刻, ゴム印, 印舗, 印	
	30 荒物	荒物, 雑貨, 万物, 縄, 網, 箕, 箒, 筵, 際物, 篩竹細工桶, 釣道具 桶荒物, 荒物紙, 荒物草履, 荒物篩	
	31 金物	金物, 鋳物, 鋸, 鉄打物, 鍋, 鉄物, 潰金銀, 鉄器	
	32 陶器漆器	陶器, 瀬戸物, 焼物, 漆器, 塗物, 塗物陶磁器, 土焼, 陶器漆器, 木具 塗揚職, 塗物師, 塗師, 漆師	
	33 籠	籠, 籠職	
	34 篩	篩, 篩職, 篩師	
	35 桶	桶, 桶職, 桶製造	
	36 竹細工	桶, 竹細工, 竹材籠, 竹皮, 竹木, 竹細工業	
	37 白	白, 唐白, 石白	
	38 下駄・傘	下駄, 靴, 傘, 照降, 蝙蝠傘, 洋傘, 鼻緒, 草履, 下駄職, 傘職, 洋傘直し 洋傘張替, 蝙蝠張替, 合羽職	
	39 紙	紙, 紙楮	
	40 ランプ・ガラス	ランプ, 洋燈, 硝子, 硝子器, 硝子板, 燈灯, 提燈, 硝子洋燈	
	41 提灯	提灯, 提灯職, 提灯師	
	42 時計	時計, 眼鏡, 時計眼鏡, 時計貴金属, 時計職	
	43 はかり	度量衡, 衡器, 尺度	
	44 文房具	文具, 筆墨, 筆墨硯紙, 帳簿繭袋, 帳簿, 紙鳶, 紙箱, 紙筆, 紙筆墨 紙筆墨硯, 帳面	
	45 洋物	洋物, 洋服, 洋服洋物, 洋品, 洋織物, 洋物雑貨, 洋物雑貨洋服 洋物洋傘, シヤツ, 和洋唐物	
	46 玩具	玩具, 玩具笛, 玩際物, 玩物, 玩弄, 手遊	
	47 菓	菓, 菓種, 菓, 目菓	
48 切手印紙	印紙, 収入印紙, 郵便切手		
49 書籍・新聞	書籍, 書肆, 書林, 書店, 貸本, 教科書, 古本, 新聞, 新聞雑誌 書籍雑誌新聞, 書籍新聞, 書籍文具		

大分類	中分類	番号	小分類	主な内訳
小売業	燃料	50	油	油, 煉油, 水油, 油薪炭, 油物業, 炭油
		51	薪炭	薪炭, 木炭, 炭, 薪
		52	石油・石炭	石油, 石炭, 石油水油, 木炭石油, 油石油炭, 薪炭石炭, 薪炭石油
	染料	53	絵具・染料	染料, ベンキ, 絵具, 絵具染料, 絵具筆墨
		54	藍	藍, 藍色, 藍玉, 藍染灰, 藍染糸染灰, 藍色
	装飾品	55	飾り	鏝, 縫箔, 櫛, 籠甲, 祝儀物, 絵馬幟, 飾職, 飭職, 櫛製造, 縫箔師
		56	美術品	美術小間物, 書画, 書画古道具, 書画骨董, 書画骨董美術, 美術貴金属
		57	雛人形	雛, 雛人形, 雛幟, 人形, 玩物雛, 雛菖蒲人形, 玩物練人形, 雛製造, 人形師
		58	仏具・葬具	葬具, 仏具, 棺道具, 神仏, 仏師, 神仏師
	繊維原料	59	糸繭	糸繭, 生繭, 繭, 繭糸, 繭買入, 絹繭, 繭乾燥場, 繭木綿, 糸生繭, 糸絹, 屑繭
		60	木綿・糸	綿, 綿花, 白木綿, 和糸, 糸, 糸紐, 撚糸, 唐糸, 綿糸, 糸紙, 糸染物, 糸綿
		61	絹糸	生糸, 絹糸, 糸絹, 生糸太織, 生糸綿花, 絹
		62	蚕種	蚕種, 蚕種業
	繊維製品	63	織物	織物, 青縞, 帯地, 綿布
		64	絹織物	生絹, 綾, 綾糸, 糸繭絹織物, 糸繭絹太織, 糸繭織物
		65	藁製品	麦藁真田, 麦藁帽子, 麦藁真田, 藁物
	家具	66	指物	指物, 椅子人力車, 椅子, 指物職, 指物師
		67	箆筒	箆筒, 箆筒職
		68	箱	箱, 桐箱, 箱製造, 箱職
		69	建具	建具, 建具指物, 建具請負業, 建具職, 建具工, 建具業
		70	畳	畳, 畳表, 畳職, 畳刺職
	農具	71	種苗・植木	種, 種子, 種物, 苗木, 植木苗木, 桑苗, 盆栽, 植木, 盆花, 植木職
		72	鉄砲火薬	火薬, 鉄砲, 鉄砲火薬
		73	馬・馬具	馬, 馬市場, 荷鞍, 馬具, 荷倉屋
		74	棒	棒, 棒細工, 鋤柄職, 棒職
		75	農具	農具, 農具諸車
		76	蚕具	養蚕機械, 養蚕機道具, 養蚕具, 養蚕道具
77		肥料	肥料, 灰, 石灰, 石灰肥料	
木材・石材	78	材木	材木, 木屋, 桐, 桐材, 真木, 檜木	
	79	石材	石, 石材, 石工	
古着・古道具・回収	80	古着・古道具	古物, 古着, 古道具, 古着古銅, 道具	
	81	屑・回収	屑, 屑物, 紙屑, 明樽, 醬油空樽, 石油空缶	
	82	銅鉄	古銅鉄, 銅鉄, 銅鉄打物	
その他	83	繊維器械	機大工, 機具職, 機具, 機具商, 機道具, 榨座繰, 製糸器, 糸取器, 座繰, 織機	
	84	楮	楮, 紙楮	
	85	撃剣・弓	弓矢, 撃剣, 吹矢	
	86	入歯	入歯師, 口中師	
	87	その他販売	索, 肴, 繰物, タンク, 硝火器, 消火器, 三味線, 瓦, 下着, ポンプ ワケ屋, 器具, 急商, 壁用品, 武力屋, 百合商, 底, 船及土商, 薯氷, 庶業	
サービス業	サービス	88	仕立・裁縫	仕立, 裁縫, 洋服裁縫, 仕立職, 仕立業, 仕立屋, 足袋シャツ裁縫, 仕上業
		89	劇場	裁縫職, 裁縫師
		90	湯屋	芝居小屋, 劇場, 寄席, 席亭
		91	理髪	湯屋, 薬湯
		92	写真	理髪床, 理髪, 床場, 床, 女理髪, 女髪結
		93	周旋	写真, 写真師
		94	水車業	雇傭口入, 雇人周旋業, 周旋
		95	その他サービス	水車業, 水車, 水車製粉
		96	代書	遊芸師匠, 遊技所, 道場, 大弓場, 葬儀, 洗濯, 射的, 剣術師匠, 演奏
	専門サービス	97	弁護士	囲碁集会, 賃貸業, 長唄指南
		98	易者	筆耕, 代弁業, 代筆, 代書
		99	医師・医師	法律事務所, 弁護士
	医療	100	鍼灸・按摩	周易, 易者
		101	産婆	医師, 医院, 獣医, 診察所, 病院, 薬剤師
	飲食	102	飲食・料理	鍼灸, 鍼灸, 揉治療, 灸師, 整骨, 針揉治療, 針灸, 針, 灸点, 鞍馬, 按摩
103		芸者屋	産婆	
宿泊	104	旅館	料理, 飲食, 饅頭, 鮎, 蕎麦, 鰻, 割烹, 料理仕出, 弁当, 居酒屋, 汁粉	
	105	下宿	素麺, 氷水	

大分類	中分類	番号	小分類	主 な 内 訳	
サービス業	待合・貸席	106	待合所	待合茶屋, 待合所, 待合, 乗合馬車待合所, 休息所, 休所, 休憩店, 休憩所	
		107	貸席	貸席, 貸座敷	
	金融・保険	108	質	質, 質古着	
		109	金融	損料貸, 損料屋, 損料, 寝具損料貸付, 金貸業, 金貸, 金銭貸付	
		110	保険	保険, 生命保険, 火災生命保険	
		111	銀行	銀行	
	運輸・通信	112	人力車	人力車, 人力車立場, 人力車停車場	
		113	馬車営業	馬車発着所, 馬車鉄道, 馬車宿, 馬車会社, 馬車営業, 乗合馬車発着所	
		114	運送	馬車, 乗合馬車	
		115	通信	運送, 回漕, 陸運, 鉄道貨物取扱所, 通運取引, 通運, 荷馬車, 荷車 運送倉庫 飛脚, 通信	
	職人・土木建築業	職人	116	鑄掛師	鑄掛屋, 鑄掛師, 鉄掛師, 鑄物師, 鑄物業, 鑄掛職, 鑄掛師
			117	鍛冶屋	鍛冶, 鍛冶職, 鍛冶屋, 鋸目立職, 鋸鍛冶, 鉄業職, 蹄鉄職, 蹄鉄工, 蹄鉄
118			車	車, 荷車, 火車, 車, 諸車, 鍛冶車, 自転車, 車職	
119			表具師	表具, 表具師, 大経師, 経師職, 経師屋	
120			ブリキ	ブリキ職, 鉄業職, 鉄業業, 鉄業屋, 鉄業細工	
121			形付	形付, 形職, 形付職, 形付業	
122			張物	張物, 張屋, 洗張物, 張物染物業, 張物業	
123			彫刻業	彫刻, 彫刻師, 彫刻業	
124			その他職人	焼接屋, 雑業, 武力細工, 綿打, 馬喰, 銅壺職, 動物標本, 燈灯職 長唄師匠, 打綿造花職, 換物ポンプ職, 水揚機械師, 水夫, 職工 三味線, 看板師, 煙火師, 消防小頭, 点燈請負業	
土木建築		125	土木建築	土木請負業, 土木建築請負, 大工請負業, 工事請負, 建築請負業	
		126	請負業	土木, 土方, 土工, 木挽 請負, 請負業	
		127	大工	大工, 宮大工	
		128	石工	石工, 石細工	
		129	鳶職	鳶, 鳶職, 瓦職, 瓦, 瓦屋根, 家屋根葺, 家屋根, 屋根職, 樋職	
		130	左官	左官	
卸売・買継・仲買業	食料品	131	米穀卸	米穀, 米雑穀, 雑穀, 穀類, 穀物, 小麦粉, 粉	
		132	青物卸	青物	
		133	甘藷卸	甘藷	
		134	果物卸	水菓子	
		135	菓子卸	菓子	
		136	食料品卸	鮎, 牛肉, 豆腐	
		137	水卸	水	
		138	酒・調味料卸	酒, 醤油味噌, 醤油, 酒醤油味噌, 酒醤油, 味噌醤油	
		139	茶卸	茶, 製茶, 桑茶	
		140	たばこ卸	たばこ	
	日用品	141	荒物卸	紙荒物, 際物, 荒物	
		142	金物卸	鉄業細工, 金物	
		143	下駄・傘卸	傘, 下駄, 下駄鼻緒	
		144	小間物卸	小間物, 小間物美術, 小間物袋物	
		145	足袋卸	足袋	
146		陶器漆器卸	陶器漆器, 陶器, 漆器		
147		玩物・雛人形卸	玩物雛, 玩物, 雛幟		
燃料	148	油・石油卸	石油, 水油, 油		
	149	薪炭卸	木炭, 炭, 薪		
繊維製品	150	織物卸	太物, 呉服太物, 反物, 織物, 青縞		
	151	絹製品卸	生絹, 絹太織, 絹七子, 生絹太物糸繭, 生絹太織, 生絹生太織		
	152	木綿製品卸	木綿綿糸, 木綿, 綿糸綿布, 綿糸, 綿花, 白木綿, 洋糸綿		
	153	藁製品卸	藁物, 麦藁帽子, 麦藁		
154	糸繭卸	製糸, 糸繭織物, 糸繭桑, 糸繭, 糸生繭, 繭, 継糸桑			
その他	155	竹・材木卸	竹木, 竹, 桐材, 桐		
	156	肥料卸	肥料, 石灰, 灰, 鯀粕		
	157	その他卸	煉瓦, 洋燈, 薬種, 筆墨, 箱, 提灯, 車, 古物, 建具, 繰打綿, 機道具		



大分類	中分類	番号	小分類	主 な 内 訳
製 造 業	食料品	158	酒醤油味噌製造	酒, 味噌, 醤油, 酢, 酒醤油味噌, 酒醤油, 味噌醤油, 酢味噌醤油, 葡萄酒
		159	麺製造	麵, 素麵, 蕎麥, 素麵, 製麵, 饅頭, 蕎麥素麵
		160	食料品製造	白玉粉, パン, 焼麩, 石花菜, ラムネ
	日用品	161	たばこ製造	たばこ
		162	金物製造	金物, 包丁, 金網, 釜製造業, 鍋製造業, 製釘所, 針
	金属	163	小間物製造	煙管, 紙, 紙箱, 折製造, 箸, 筆, 盆花, ボール箱
		164	鋳物製造	鋳物, 鉄物, 鉄打物
	繊維製品	165	織物業	織物, 織, 機織物, 機業, 機織, 機屋, 綿布, 白魚子織, 布織, 羽二重
		166	染物業	帯地, 綾糸, 綾
		167	製糸業	染物, 紺屋, 縫箔染物, 染め物業, 糸染, 布染, 染色, 上絵師, 上絵下絵師
		168	足袋製造業	製糸, 紡績, 撚糸, 糸繰, 糸元結, 生糸
	器械	169	足袋製造業	足袋, 足袋底
		170	繊維器械製造	機道具, 機具, 機, 箆, 木綿機織, 製糸機, 織機, 座繰
171		農具・蚕具製造	農具, 蚕業, 蚕農道具, 車農具, 農機具	
印刷	171	その他器械製造	器械, ポンプ, 唧筒, 水揚器, 製茶機械	
	172	印刷	活版所, 活版印刷所, 石版印刷所, 製本職, 活印屋	
その他	173	油製造	油, 水油, 燈油, 煉油	
	174	その他製造	袋鯛製造, 裙皮製造, ワク製造, 瓦, 琴三味線, 古物仕切, 三味線駒 打綿, 短衣, 中綿	











		製造業						印刷	その他	
		食料品	金属	繊維製品	器械	印刷	その他			
		酒類製造 醤油味噌製造	食料品製造 たばこ製造 小間物製造	織染物業 織物業 織物業	織染物業 織物業 織物業	織染物業 織物業 織物業	織染物業 織物業 織物業			
北足立郡	1 浦和町	0	1	0	0	0	0	3	1	1
	2 蕨町	0	0	0	0	0	53	7	1	1
	3 川口町	1	0	0	0	2	1	38	0	0
	4 草加町	1	0	0	0	0	0	3	0	0
	5 鳩ヶ谷町	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	6 与野町	0	0	0	0	0	0	11	1	0
	7 大宮町	3	0	1	0	0	0	7	1	2
	8 上尾町	0	1	0	0	0	0	1	1	0
	9 桶川町	1	1	0	0	0	0	3	1	0
	10 鴻巣町	3	0	0	2	0	1	2	2	0
	11 原市町	3	0	0	1	0	0	3	2	0
	12 志木町	5	1	0	0	0	0	3	3	1
	13 大和田町	0	0	0	0	0	0	0	0	0
入間郡	14 川越町	7	0	1	0	0	1	12	9	3
	15 所澤町	2	1	0	0	0	0	2	6	0
	16 豊岡町	4	0	0	0	0	0	8	1	4
	17 入間川町	6	0	1	0	0	0	17	2	3
	18 坂戸町	1	0	0	0	0	0	2	2	0
	19 越生町	1	0	0	0	0	0	3	1	0
	20 飯能町	4	1	0	0	0	0	1	0	0
比企郡	21 松山町	5	2	1	2	0	0	1	2	3
	22 小川町	4	2	0	0	0	2	4	0	0
秩父郡	23 秩父大宮町	1	0	0	4	0	0	2	4	0
	24 小籠野町	6	0	0	2	0	0	0	1	0
児玉郡	25 本庄町	4	0	1	1	0	0	1	3	1
	26 児玉町	3	0	1	1	0	0	0	1	2
大里郡	27 熊谷町	6	1	1	1	0	2	0	15	1
	28 妻沼村	2	0	0	1	0	0	0	1	0
	29 深谷町	4	0	0	1	2	1	2	0	3
	30 寄居町	3	1	0	0	0	0	0	2	0
	31 忍町	2	0	0	0	0	0	2	2	0
北埼玉郡	32 加須町	3	3	0	2	0	0	1	8	2
	33 不動岡村	1	0	0	0	0	0	1	1	0
	34 羽生町	6	1	0	0	0	0	3	4	0
	35 騎西町	2	0	1	0	0	0	1	3	0
南埼玉郡	36 岩槻町	6	0	0	0	0	0	0	2	1
	37 相模町	1	1	0	2	0	0	0	1	0
	38 豊浦町	1	0	0	1	0	0	0	1	0
	39 八景町	2	2	1	0	1	0	1	2	0
北葛飾郡	40 越ヶ谷町	2	0	0	0	0	0	0	0	0
	41 大澤町	0	0	1	0	0	0	1	3	0
	42 栗橋町	0	0	0	0	0	0	0	2	1
	43 幸手町	5	0	0	1	1	0	1	4	1
44 杉戸町	2	1	0	1	0	0	3	1	0	
合計	114	20	10	22	7	11	42	147	115	30
	158	159	160	161	162	163	164	165	166	167
	168	169	170	171	172	173	174	175	176	177